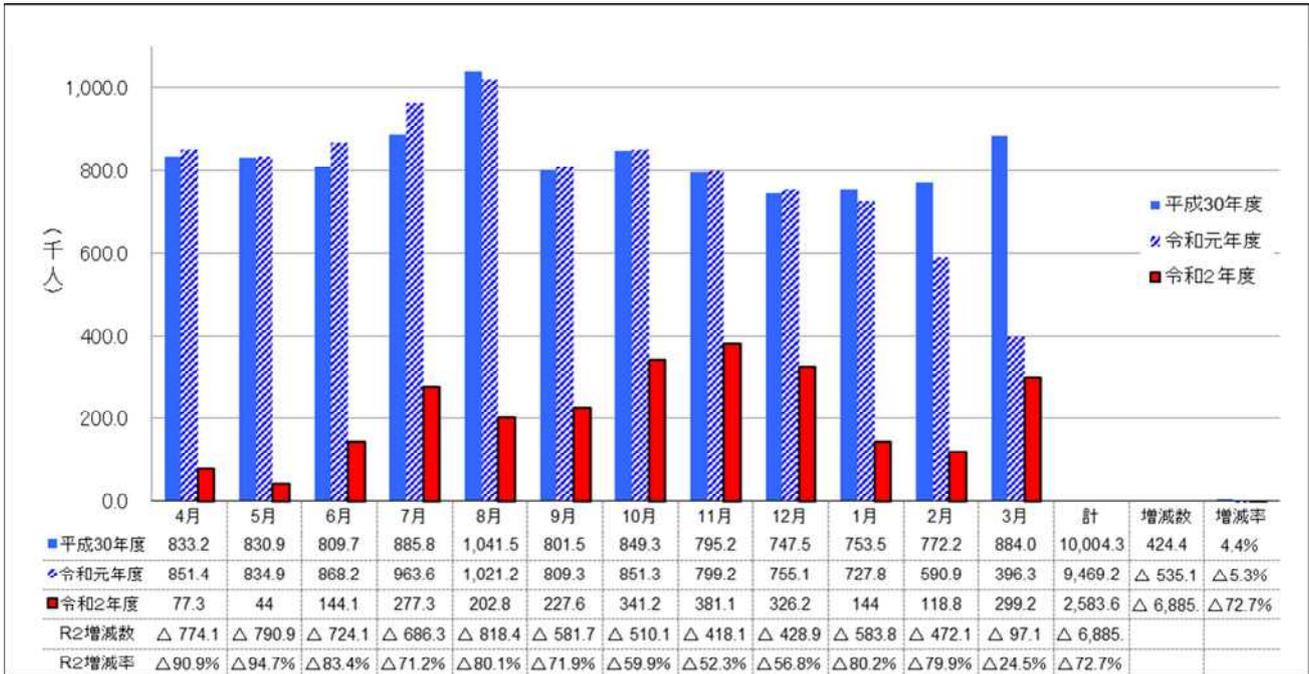


令和2年度 沖縄県入域観光客統計概況

文化観光スポーツ部 観光政策課
令和3年4月発表

令和2年度の観光客数は、258万3,600人
 対前年度（R1）比 **-688万5,600人、-72.7%**
 ～減少数、減少率ともに過去最大～

■月別入域観光客数の推移（平成30年度～令和2年度）



■令和2年度の概況（総括）

令和2年度の入域観光客数は258万3,600人で、前年度比で688万5,600人、率にして72.7%の減少となった。年度の観光客数としては、令和元年度に続いて2年連続で減少となり、昭和63年度の241万1,700人に次ぐ低水準となった。

令和元年度と比べて減少した要因は、次のとおりと考えられる。

- 新型コロナウイルス感染症の影響による旅行の自粛
- 国内航空路線の運休・減便による国内客の減少
- 海外から日本への入国制限措置がとられたことによる外国客の減少（皆減）

■令和3年度の見通し

国内客については、新型コロナウイルス感染症の感染状況やGo To トラベル事業の実施状況などに大きく影響されると考えられる。

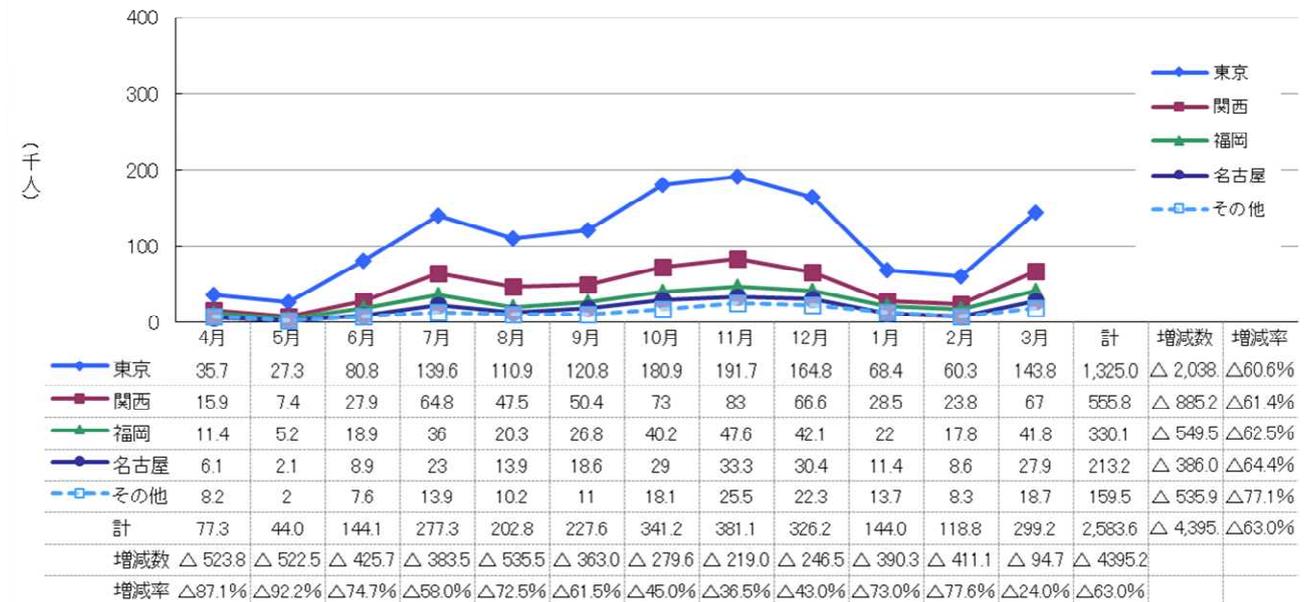
また、外国客については、海外から日本への入国制限措置が講じられていること、東京オリンピックにおいて海外観客の受入を行わないこと等から、少なくとも年度前半までは厳しい状況が見込まれる。

国内観光客の動向

■入域観光客数（国内）

令和2年度の国内客は、対前年度比で439万5,200人、率にして63.0%減の258万3,600人となり、令和元年度に続き2年連続で減少となった。

■令和2年度国内観光客の状況（方面別の月別推移）



■国内観光客の概況

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響による旅行自粛等から、国内旅行需要が大幅に減少した。

4月、5月は国や沖縄県から緊急事態宣言が発出され、ゴールデンウィークを含む期間で、旅行自粛要請があったこと、また、例年ハイシーズンとなる8月から9月上旬にかけては、沖縄県緊急事態宣言が発出、1月から3月にかけて国や県の緊急事態宣言が発出され、県外からの慎重な渡航が呼びかけられたことなどから、前年度を大きく下回った。

【方面別の動向】

東京方面 成田-石垣路線の提供座席数の増加や羽田-下地島路線の新規開設があったものの、羽田-那覇路線などの減便規模が大きかったことなどから、前年度を大きく下回った。

関西方面 伊丹-石垣路線の提供座席数の増加や神戸-下地島路線の新規開設があったものの、関西-那覇路線などの減便規模が大きかったことなどから、前年度を大きく下回った。

福岡方面 福岡-那覇路線などの運休・減便により提供座席数が減少し、航空路線の運航規模が縮小されたことなどから、前年度を大きく下回った。

名古屋方面 中部-那覇路線などの運休・減便により提供座席数が減少し、航空路線の運航規模が縮小されたことなどから、前年度を大きく下回った。

外国人観光客の動向

■入域観光客数（外国）

令和2年度の外国客は、令和元年度の249万400人から皆減となり、減少数、減少率ともに過去最大の減少、復帰後初めて外国人観光客が0人となった。

■外国人観光客の概況

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症拡大等の影響から、航空路線の運休やクルーズ船の運航停止、台湾、中国、香港、韓国を含む国や地域から日本への入国制限措置がとられたことにより、外国人観光客が皆減となった。

令和2年(2020)4月 入域観光客数概況

7万7,300人
対前年(H31)同月比 -77万4,100人、-90.9%
～減少数、減少率ともに過去最大の減少～

入域状況

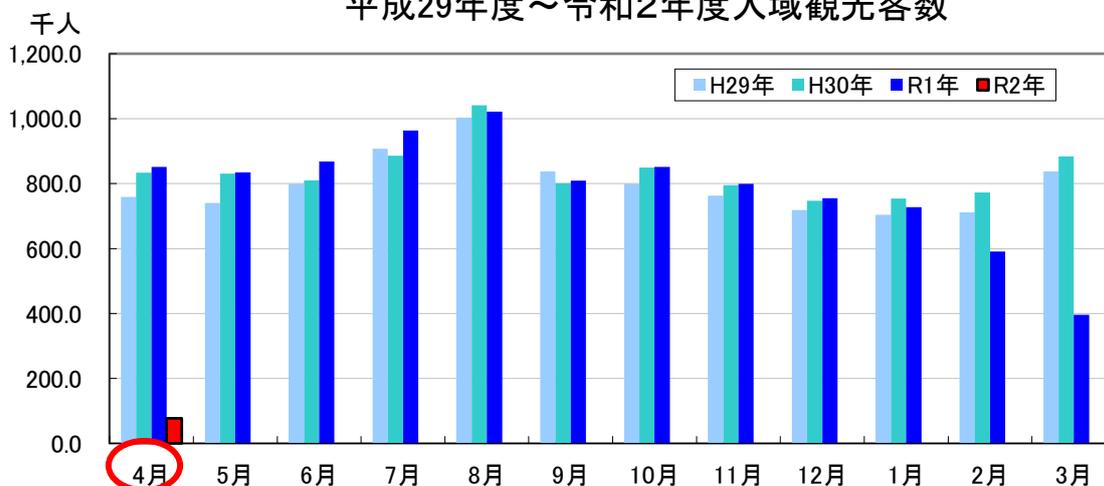
入域観光客数(令和元年度との比較) ※外国客については、乗務員等を**含む**

区分	R2年度	R1年度	増減数	増減率	構成比
国内客	77,300 人	601,100 人	△ 523,800人	△ 87.1%	100.0%
外国客	0 人	250,300 人	△ 250,300人	△ 100.0%	0.0%
合計	77,300 人	851,400 人	△ 774,100人	△ 90.9%	100.0%

【参考】入域観光客数(令和元年度との比較) ※外国客については、乗務員等を**除く**

区分	R2年度	R1年度	増減数	増減率	構成比
国内客	77,300 人	601,100 人	△ 523,800人	△ 87.1%	100.0%
外国客	0 人	218,600 人	△ 218,600人	△ 100.0%	0.0%
合計	77,300 人	819,700 人	△ 742,400人	△ 90.6%	100.0%

平成29年度～令和2年度入域観光客数



国内客 入域状況

4月は、航空便の運休・減便に加えて、国の緊急事態宣言が行われ、全国に不要不急の旅行自粛要請が行われたこと、また、沖縄県知事からも来県自粛を呼びかけたこと等から、前年同月を大きく下回った。

5月は、新型コロナウイルスの感染拡大の影響に伴う航空便の運休・減便が拡大していること等から、一層厳しい状況が予想される。

外国客 入域状況

4月は、新型コロナウイルス感染症の拡大の防止の観点から、台湾、中国、香港、韓国等の地域を対象に国による厳しい入国制限の措置がとられたことから、皆減となった。

5月は、航空便の運休やクルーズ船の運航停止が引き続き見込まれること等から、厳しい状況が続くと予想される。

国内客 地域別入域状況

区分	R2年度	R1年度	増減数	増減率	構成比
東京方面	35,700 人	279,500 人	△ 243,800人	△ 87.2%	46.2%
関西方面	15,900 人	124,100 人	△ 108,200人	△ 87.2%	20.6%
福岡方面	11,400 人	74,900 人	△ 63,500人	△ 84.8%	14.7%
名古屋	6,100 人	54,400 人	△ 48,300人	△ 88.8%	7.9%
その他	8,200 人	68,200 人	△ 60,000人	△ 88.0%	10.6%
合計	77,300 人	601,100 人	△ 523,800人	△ 87.1%	100.0%

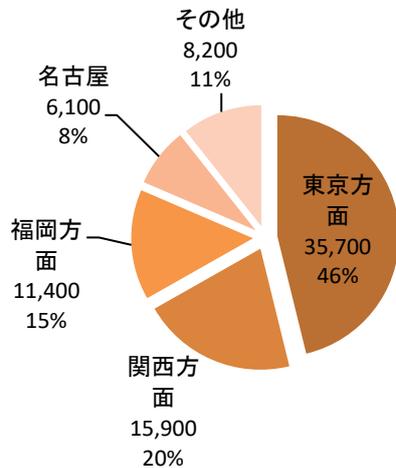
※国内海路客400人を含む(鹿児島400人)

外国客 国籍別入域状況

増減数及び増減率は、乗務員等を含む数値の比較

区分	R2年度	R2年度	R1年度	増減数	増減率	構成比
	(乗務員等含む)	(乗務員等除く)	(乗務員等含む)			
台湾	0 人	0 人	84,800 人	△ 84,800人	△100.0%	-
韓国	0 人	0 人	42,000 人	△ 42,000人	△100.0%	-
中国本土	0 人	0 人	46,900 人	△ 46,900人	△100.0%	-
香港	0 人	0 人	25,400 人	△ 25,400人	△100.0%	-
アメリカ	0 人	0 人	3,600 人	△ 3,600人	△100.0%	-
タイ	0 人	0 人	2,600 人	△ 2,600人	△100.0%	-
シンガポール	0 人	0 人	1,500 人	△ 1,500人	△100.0%	-
その他	0 人	0 人	43,500 人	△ 43,500人	△100.0%	-
合計	0 人	0 人	250,300 人	△ 250,300人	△100.0%	-

国内客の地域構成比



外国客 空路・海路の国籍別入域状況

増減率は、乗務員等を含む数値の比較

区分	空路				海路			
	観光客数 (乗務員等含む)	観光客数 (乗務員等除く)	増減率	構成比	観光客数 (乗務員等含む)	観光客数 (乗務員等除く)	増減率	構成比
台湾	0 人	0 人	△100.0%	-	0 人	0 人	△100.0%	-
韓国	0 人	0 人	△100.0%	-	0 人	0 人	△100.0%	-
中国本土	0 人	0 人	△100.0%	-	0 人	0 人	△100.0%	-
香港	0 人	0 人	△100.0%	-	0 人	0 人	△100.0%	-
アメリカ	0 人	0 人	△100.0%	-	0 人	0 人	△100.0%	-
タイ	0 人	0 人	△100.0%	-	0 人	0 人	△100.0%	-
シンガポール	0 人	0 人	△100.0%	-	0 人	0 人	△100.0%	-
その他	0 人	0 人	△100.0%	-	0 人	0 人	△100.0%	-
合計	0 人	0 人	△100.0%	-	0 人	0 人	△100.0%	-

各方面ごとの概況と見通し

東京

4月は、航空便の運休・減便に加えて、東京都等で旅行自粛要請が行われたこと、また、沖縄県知事からも来県自粛を呼びかけたこと等から、前年を大きく下回った。
5月は、新型コロナウイルスの感染拡大の影響に伴う航空便の運休・減便が拡大していること等から、一層厳しい状況が予想される。

大阪

4月は、航空便の運休・減便に加えて、大阪府等で旅行自粛要請が行われたこと、また、沖縄県知事からも来県自粛を呼びかけたこと等から、前年を大きく下回った。
5月は、新型コロナウイルスの感染拡大の影響に伴う航空便の運休・減便が拡大していること等から、一層厳しい状況が予想される。

福岡

4月は、航空便の運休・減便に加えて、福岡県等で旅行自粛要請が行われたこと、また、沖縄県知事からも来県自粛を呼びかけたこと等から、前年を大きく下回った。
5月は、新型コロナウイルスの感染拡大の影響に伴う航空便の運休・減便が拡大していること等から、一層厳しい状況が予想される。

名古屋

4月は、航空便の運休・減便に加えて、愛知県等で旅行自粛要請が行われたこと、また、沖縄県知事からも来県自粛を呼びかけたこと等から、前年を大きく下回った。
5月は、新型コロナウイルスの感染拡大の影響に伴う航空便の運休・減便が拡大していること等から、一層厳しい状況が予想される。

台湾

4月は、新型コロナウイルス感染症の拡大により、日本への渡航警戒レベルが引き上げられていることに加え、台湾に滞在歴のある外国人が上陸拒否の対象となったこと等から、皆減となった。
5月は、航空便の運休やクルーズ船の運航停止が引き続き見込まれることから、厳しい状況が続くと予想される。

韓国

4月は、新型コロナウイルス感染症の拡大により、韓国全域に滞在歴のある外国人が上陸拒否の対象となったこと等から皆減となった。
5月は、航空便の運航停止が引き続き見込まれることから、厳しい状況が続くと予想される。

中国本土

4月は、新型コロナウイルス感染症の拡大により、引き続き団体ツアー等の商品販売が中国政府により禁止されていることに加え、中国全域に滞在歴のある外国人が上陸拒否の対象となったこと等から、皆減となった。
5月は、航空便の運休やクルーズ船の運航停止が引き続き見込まれることから、厳しい状況が続くと予想される。

香港

4月は、新型コロナウイルス感染症の拡大により、香港政府が日本への渡航レベルを引き上げていることに加え、香港に滞在歴のある外国人が上陸拒否の対象となったこと等から、皆減となった。
5月は、航空便の運休やクルーズ船の運航停止が引き続き見込まれることから、厳しい状況が続くと予想される。

令和2年(2020)5月 入域観光客数概況

4万4,000人
対前年(R1)同月比 -79万900人、-94.7%
～減少数、減少率ともに過去最大～

入域状況

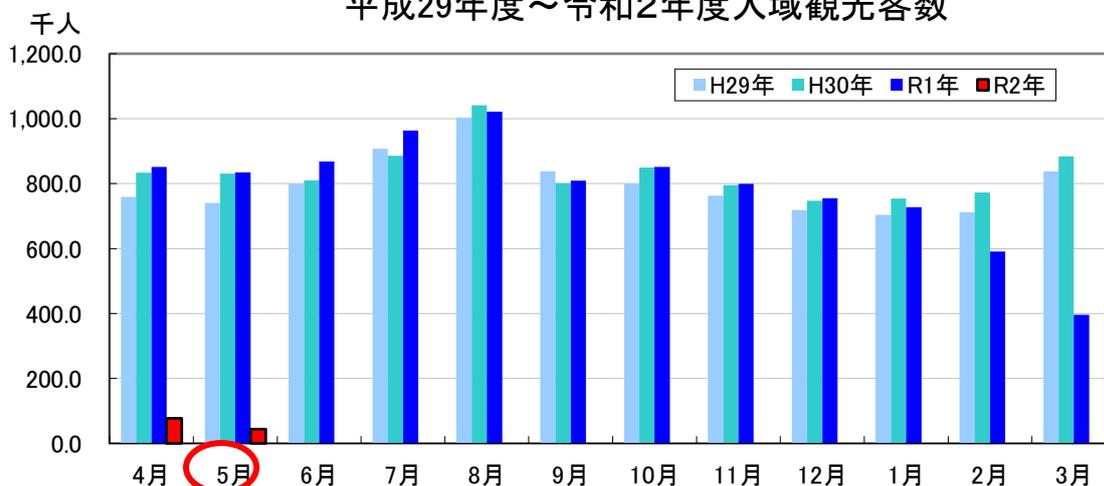
入域観光客数(令和元年度との比較) ※外国客については、乗務員等を**含む**

区分	R2年度	R1年度	増減数	増減率	構成比
国内客	44,000 人	566,500 人	△ 522,500人	△ 92.2%	100.0%
外国客	0 人	268,400 人	△ 268,400人	皆減	0.0%
合計	44,000 人	834,900 人	△ 790,900人	△ 94.7%	100.0%

【参考】入域観光客数(令和元年度との比較) ※外国客については、乗務員等を**除く**

区分	R2年度	R1年度	増減数	増減率	構成比
国内客	44,000 人	566,500 人	△ 522,500人	△ 92.2%	100.0%
外国客	0 人	234,900 人	△ 234,900人	皆減	0.0%
合計	44,000 人	801,400 人	△ 757,400人	△ 94.5%	100.0%

平成29年度～令和2年度入域観光客数



国内客 入域状況

5月は、航空便の運休・減便に加えて、4月7日以降、国による緊急事態宣言が行われ、不要不急の旅行自粛要請が行われたこと、また、ゴールデンウィークを含む期間、沖縄県知事からも来県自粛を呼びかけたことなどから、前年同月を大きく下回った。

6月は、都道府県をまたぐ観光振興の取り組みにより、一定の回復が期待されるものの、航空便の運休・減便が継続されていることなどから、厳しい状況が続くと予想される。

外国客 入域状況

5月は、新型コロナウイルス感染症の拡大の防止の観点から、台湾、中国、香港、韓国などを対象に国による厳しい入国制限措置が継続されたことなどから、皆減となった。

6月は、国による入国制限措置、航空便の運休やクルーズ船の運航停止が引き続き見込まれることなどから、厳しい状況が続くと予想される。

国内客 地域別入域状況

区分	R2年度	R1年度	増減数	増減率	構成比
東京方面	27,300 人	253,300 人	△ 226,000人	△ 89.2%	62.0%
関西方面	7,400 人	131,300 人	△ 123,900人	△ 94.4%	16.8%
福岡方面	5,200 人	69,100 人	△ 63,900人	△ 92.5%	11.8%
名古屋	2,100 人	47,700 人	△ 45,600人	△ 95.6%	4.8%
その他	2,000 人	65,100 人	△ 63,100人	△ 96.9%	4.5%
合計	44,000 人	566,500 人	△ 522,500人	△ 92.2%	100.0%

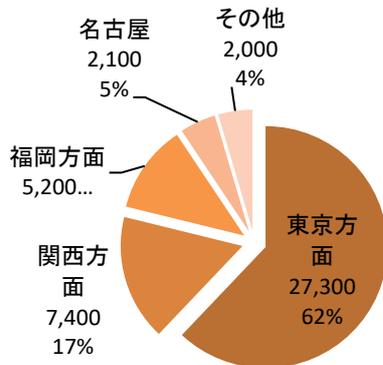
※国内海路客200人を含む(鹿児島200人)

外国客 国籍別入域状況

増減数及び増減率は、乗務員等を含む数値の比較

区分	R2年度	R2年度	R1年度	増減数	増減率	構成比
	(乗務員等含む)	(乗務員等除く)	(乗務員等含む)			
台湾	0 人	0 人	94,900 人	△ 94,900人	皆減	N/A
韓国	0 人	0 人	45,600 人	△ 45,600人	皆減	N/A
中国本土	0 人	0 人	49,700 人	△ 49,700人	皆減	N/A
香港	0 人	0 人	22,100 人	△ 22,100人	皆減	N/A
アメリカ	0 人	0 人	3,300 人	△ 3,300人	皆減	N/A
タイ	0 人	0 人	2,600 人	△ 2,600人	皆減	N/A
シンガポール	0 人	0 人	1,700 人	△ 1,700人	皆減	N/A
その他	0 人	0 人	48,500 人	△ 48,500人	皆減	N/A
合計	0 人	0 人	268,400 人	△ 268,400人	皆減	N/A

国内客の地域構成比



外国客 空路・海路の国籍別入域状況

増減率は、乗務員等を含む数値の比較

区分	空路				海路			
	観光客数 (乗務員等含む)	観光客数 (乗務員等除く)	増減率	構成比	観光客数 (乗務員等含む)	観光客数 (乗務員等除く)	増減率	構成比
台湾	0 人	0 人	皆減	N/A	0 人	0 人	皆減	N/A
韓国	0 人	0 人	皆減	N/A	0 人	0 人	皆減	N/A
中国本土	0 人	0 人	皆減	N/A	0 人	0 人	皆減	N/A
香港	0 人	0 人	皆減	N/A	0 人	0 人	皆減	N/A
アメリカ	0 人	0 人	皆減	N/A	0 人	0 人	皆減	N/A
タイ	0 人	0 人	皆減	N/A	0 人	0 人	皆減	N/A
シンガポール	0 人	0 人	皆減	N/A	0 人	0 人	皆減	N/A
その他	0 人	0 人	皆減	N/A	0 人	0 人	皆減	N/A
合計	0 人	0 人	皆減	N/A	0 人	0 人	皆減	N/A

各方面ごとの概況と見通し

東京

5月は、前年同月比89.2%減の27,300人で、主要方面別では最も減少率が低かった。航空便の運休・減便により、航空輸送の提供座席数は、前年同月比73.5%減、利用率は32.1%となり、前年同月を大きく下回った。

6月は、一部の航空路線で再開があるものの、他地域と比較して減便の影響が大きいことに加え、渡航自粛要請の解除が6月下旬になったことなどから、厳しい状況が続くと予想される。

大阪

5月は、前年同月比94.4%減の7,400人であった。航空便の運休・減便により、航空輸送の提供座席数は、前年同月比79.8%減、利用率は23.6%となり、前年同月を大きく下回った。

6月は、一部の航空路線で再開があるものの、航空便の運休・減便が継続されることなどから、厳しい状況が続くと予想される。

福岡

5月は、前年同月比92.5%減の5,200人であった。航空便の運休・減便により、航空輸送の提供座席数は、前年同月比82.0%減で、また、利用率は28.9%となり、前年同月を大きく下回った。

6月は、一部の航空路線で再開があるものの他地域と比較して減便の影響が大きいことに加え、渡航自粛要請の解除が6月下旬になったことなどから、厳しい状況が続くと予想される。

名古屋

5月は、前年同月比95.6%減の2,100人で、主要方面別では最も減少率が高かった。航空便の運休・減便により、航空輸送の提供座席数は、前年同月比78.2%減、利用率は15.5%となり、前年同月を大きく下回った。

6月は、一部の航空路線で再開があるものの、航空便の運休・減便が継続されることなどから、厳しい状況が続くと予想される。

台湾

5月は、台湾(台北、台中、高雄)－沖縄(那覇、石垣)4路線が全て運休になっていること、また、3月17日以降、日本への渡航警戒レベルが引き上げられていることに加え、日本では4月3日以降、台湾が上陸拒否の対象となっていることなどから、前年同月94,900人から皆減となった。

6月は、航空便の運休やクルーズ船の運航停止、日本への上陸拒否が引き続き見込まれることなどから、厳しい状況が続くと予想される。

韓国

5月は、韓国(ソウル、釜山、大邱)－那覇3路線が全て運休になっていること、日本において4月3日以降、韓国が上陸拒否の対象となっていることなどから、前年同月45,600人から皆減となった。

6月は、航空便の運航停止や日本への上陸拒否が引き続き見込まれることなどから、厳しい状況が続くと予想される。

中国本土

5月は、中国(上海、北京、天津、杭州、南京、重慶)－那覇6路線が全て運休になっていること、また、1月27日以降、団体ツアーなどの商品販売が中国政府により禁止されていることに加え、日本においても4月3日以降、中国が上陸拒否の対象となっていることなどから、前年同月の49,700人から皆減となった。

6月は、航空便の運休やクルーズ船の運航停止、日本への上陸拒否が引き続き見込まれることなどから、厳しい状況が続くと予想される。

香港

5月は、香港－沖縄(那覇、石垣、下地島)3路線が全て運休になっていること、また、3月17日以降、香港政府が海外への渡航レベルを引き上げ自粛を要請していることに加え、4月3日以降、香港が上陸拒否の対象となっていることから、前年同月の22,100人から皆減となった。

6月は、日本への上陸拒否の対象地域とされていること、また、航空便の運休やクルーズ船の運航停止が引き続き見込まれることなどから、厳しい状況が続くと予想される。

令和2年(2020)6月 入域観光客数概況

14万4,100人
対前年(R1)同月比 -72万4,100人、-83.4%
～6月の対前年同月比較で減少数、減少率ともに過去最大～

入域状況

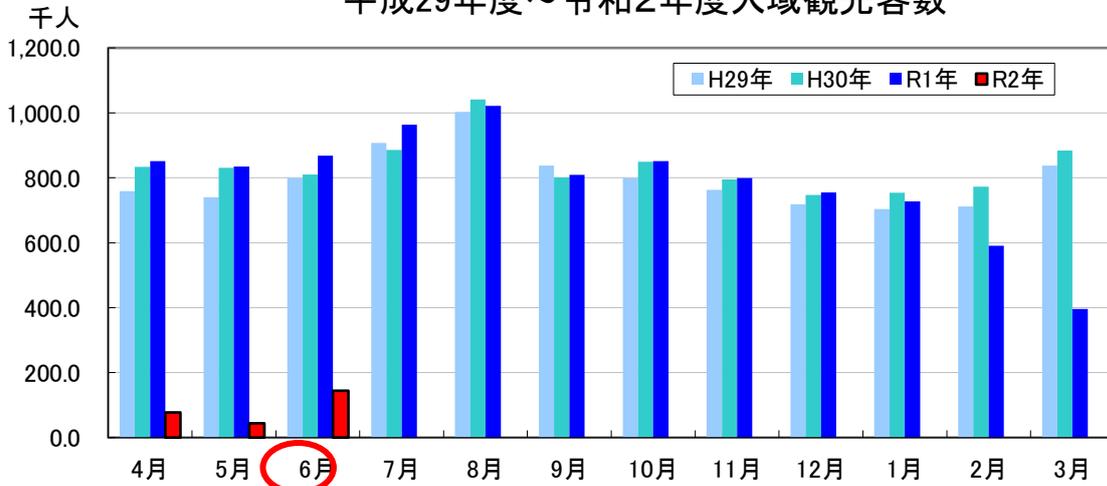
入域観光客数(令和元年度との比較) ※外国客については、乗務員等を**含む**

区分	R2年度	R1年度	増減数	増減率	構成比
国内客	144,100 人	569,800 人	△ 425,700人	△ 74.7%	100.0%
外国客	0 人	298,400 人	△ 298,400人	皆減	0.0%
合計	144,100 人	868,200 人	△ 724,100人	△ 83.4%	100.0%

【参考】入域観光客数(令和元年度との比較) ※外国客については、乗務員等を**除く**

区分	R2年度	R1年度	増減数	増減率	構成比
国内客	144,100 人	569,800 人	△ 425,700人	△ 74.7%	100.0%
外国客	0 人	259,800 人	△ 259,800人	皆減	0.0%
合計	144,100 人	829,600 人	△ 685,500人	△ 82.6%	100.0%

平成29年度～令和2年度入域観光客数



国内客 入域状況

6月は、航空路線の運休・減便に加えて、新型コロナウイルス感染症のまん延防止の観点から、6月18日まで沖縄県と首都圏を中心とした都道府県間における不要不急の移動自粛要請が継続されたことなどから、前年同月を大きく下回った。

7月は、都道府県をまたぐ観光振興の取り組みにより、緩やかな回復基調が続くと見込まれるものの、一部航空路線の運休・減便が継続されていることなどから、厳しい状況が続くと予想される。

外国客 入域状況

6月は、新型コロナウイルス感染症の拡大の防止の観点から、台湾、中国、香港、韓国を含む国や地域を対象とした日本への入国制限措置が継続されたことなどから、皆減となった。

7月も台湾、中国、香港、韓国を含む国や地域に対する日本への入国制限措置、航空路線の運休やクルーズ船の運航停止が引き続き見込まれることなどから、厳しい状況が続くと予想される。

国内客 地域別入域状況

区分	R2年度	R1年度	増減数	増減率	構成比
東京方面	80,800 人	272,900 人	△ 192,100人	△ 70.4%	56.1%
関西方面	27,900 人	123,100 人	△ 95,200人	△ 77.3%	19.4%
福岡方面	18,900 人	70,800 人	△ 51,900人	△ 73.3%	13.1%
名古屋	8,900 人	49,800 人	△ 40,900人	△ 82.1%	6.2%
その他	7,600 人	53,200 人	△ 45,600人	△ 85.7%	5.3%
合計	144,100 人	569,800 人	△ 425,700人	△ 74.7%	100.0%

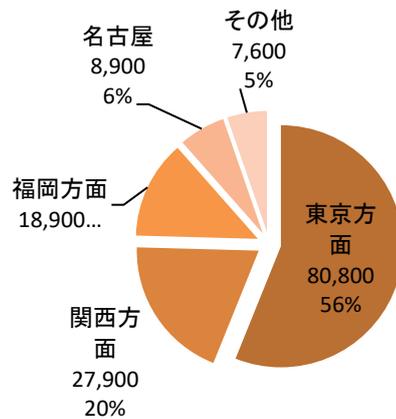
※国内海路客200人を含む(鹿児島200人)

外国客 国籍別入域状況

増減数及び増減率は、乗務員等を含む数値の比較

区分	R2年度	R2年度	R1年度	増減数	増減率	構成比
	(乗務員等含む)	(乗務員等除く)	(乗務員等含む)			
台湾	0 人	0 人	105,300 人	△ 105,300人	皆減	N/A
韓国	0 人	0 人	45,200 人	△ 45,200人	皆減	N/A
中国本土	0 人	0 人	67,900 人	△ 67,900人	皆減	N/A
香港	0 人	0 人	24,200 人	△ 24,200人	皆減	N/A
アメリカ	0 人	0 人	2,900 人	△ 2,900人	皆減	N/A
タイ	0 人	0 人	2,900 人	△ 2,900人	皆減	N/A
シンガポール	0 人	0 人	2,900 人	△ 2,900人	皆減	N/A
その他	0 人	0 人	47,100 人	△ 47,100人	皆減	N/A
合計	0 人	0 人	298,400 人	△ 298,400人	皆減	N/A

国内客の地域構成比



外国客 空路・海路の国籍別入域状況

増減率は、乗務員等を含む数値の比較

区分	空路				海路			
	観光客数 (乗務員等含む)	観光客数 (乗務員等除く)	増減率	構成比	観光客数 (乗務員等含む)	観光客数 (乗務員等除く)	増減率	構成比
台湾	0 人	0 人	皆減	N/A	0 人	0 人	皆減	N/A
韓国	0 人	0 人	皆減	N/A	0 人	0 人	皆減	N/A
中国本土	0 人	0 人	皆減	N/A	0 人	0 人	皆減	N/A
香港	0 人	0 人	皆減	N/A	0 人	0 人	皆減	N/A
アメリカ	0 人	0 人	皆減	N/A	0 人	0 人	皆減	N/A
タイ	0 人	0 人	皆減	N/A	0 人	0 人	皆減	N/A
シンガポール	0 人	0 人	皆減	N/A	0 人	0 人	皆減	N/A
その他	0 人	0 人	皆減	N/A	0 人	0 人	皆減	N/A
合計	0 人	0 人	皆減	N/A	0 人	0 人	皆減	N/A

各方面ごとの概況と見通し

東京

6月は、前年同月比で70.4%減の80,800人となり、主要方面別では最も減少率が低かった。成田－那覇路線などの運休・減便に加えて、新型コロナウイルス感染症の影響により、6月18日まで沖縄県との移動自粛要請が継続されたことなどから、前年同月を大きく下回った。

7月は、成田－那覇路線など一部航空路線の運休・減便が続くことに加え、東京都による都民の都外への移動自粛要請があることなどから、厳しい状況が続くと見込まれる。

大阪

6月は、前年同月比77.3%減の27,900人であった。関西－那覇、宮古、下地島、石垣路線の運休・減便があったことなどから、前年同月を大きく下回った。

7月は、一部運休されていた関西－那覇、宮古、石垣路線などが再開されることから、緩やかな回復基調が見込まれるものの、一部減便が継続されることなどから、厳しい状況が続くと予想される。

福岡

6月は、前年同月比73.3%減の18,900人であった。福岡－那覇、石垣路線などの航空路線の運休・減便に加え、新型コロナウイルス感染症の影響により、6月18日まで沖縄県との不要不急の移動自粛要請が継続されたことなどから、前年同月を大きく下回った。

7月は、福岡－石垣路線が全面的に再開されることから、緩やかな回復基調が見込まれるものの、一部減便が継続されることなどから、厳しい状況が続くと予想される。

名古屋

6月は、前年同月比82.1%減の8,900人で、主要方面別では最も減少率が高かった。中部－宮古、石垣路線の運休に加えて、他地域と比較して減便の影響が大きかったことなどから、前年同月を大きく下回った。

7月は、中部－宮古、石垣路線が再開されることから、緩やかな回復基調が見込まれるものの、一部減便が継続されることなどから、厳しい状況が続くと予想される。

台湾

6月も台湾(台北、台中、高雄)－沖縄(那覇、石垣)4路線が全て運休になっていること、また、3月17日以降、日本への渡航警戒レベルが引き上げられていることに加え、4月3日以降、台湾が入国制限措置の対象となっていることなどから、前年同月105,300人から皆減となった。

7月は、航空路線の運休やクルーズ船の運航停止、日本へ入国制限措置が引き続き見込まれることなどから、厳しい状況が続くと予想される。

韓国

6月も韓国(ソウル、釜山、大邱)－那覇3路線が全て運休になっていること、日本において4月3日以降、韓国が入国制限措置の対象となっていることなどから、前年同月45,200人から皆減となった。

7月は、航空路線の運休や3月9日以降の韓国からの航空便の到着空港限定、日本への入国制限措置が引き続き見込まれることなどから、厳しい状況が続くと予想される。

中国本土

6月も中国(上海、北京、天津、杭州、南京、重慶)－那覇6路線が全て運休になっていること、また、1月27日以降、団体ツアーなどの商品販売が中国政府により禁止され、4月3日以降、中国が入国制限措置の対象となっていることなどから、前年同月の67,900人から皆減となった。

7月は、航空路線の運休や3月9日以降の中国からの航空便の到着空港限定、クルーズ船の運航停止、日本への入国制限措置が引き続き見込まれることなどから、厳しい状況が続くと予想される。

香港

6月も香港－沖縄(那覇、石垣、下地島)3路線が全て運休になっていること、また、3月17日以降、香港政府が海外への渡航レベルを引き上げ自粛を要請していることに加え、4月3日以降、香港が入国制限措置の対象となっていることから、前年同月の24,200人から皆減となった。

7月は、日本への入国制限措置の対象地域とされていること、また、航空路線の運休やクルーズ船の運航停止が引き続き見込まれることなどから、厳しい状況が続くと予想される。

令和2年(2020)7月 入域観光客数概況

27万7,300人
 対前年(R1)同月比 -68万6,300人、-71.2%
 ~7月としては対前年同月比で減少数、減少率ともに過去最大~

入域状況

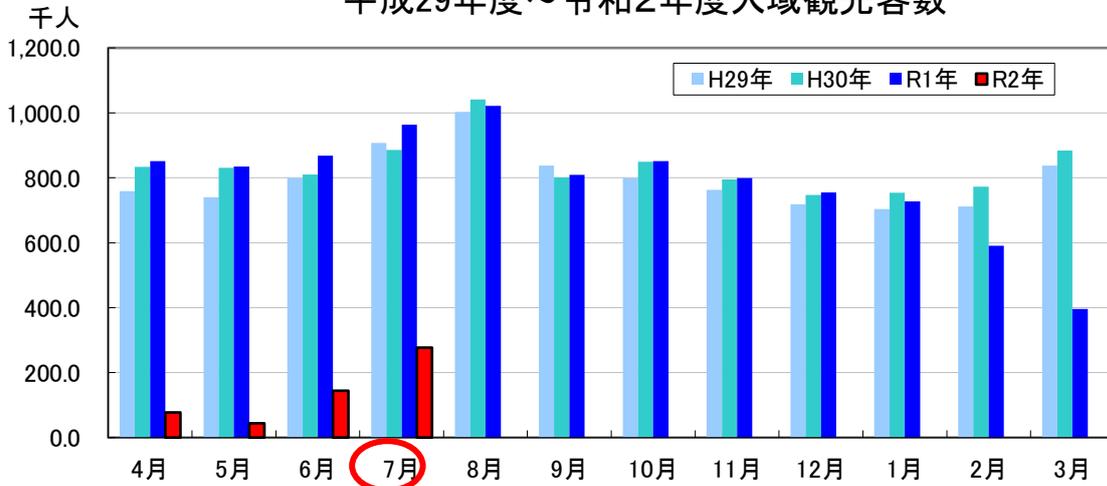
入域観光客数(令和元年度との比較) ※外国客については、乗務員等を**含む**

区分	R2年度	R1年度	増減数	増減率	構成比
国内客	277,300 人	660,800 人	△ 383,500人	△ 58.0%	100.0%
外国客	0 人	302,800 人	△ 302,800人	皆減	0.0%
合計	277,300 人	963,600 人	△ 686,300人	△ 71.2%	100.0%

【参考】入域観光客数(令和元年度との比較) ※外国客については、乗務員等を**除く**

区分	R2年度	R1年度	増減数	増減率	構成比
国内客	277,300 人	593,300 人	△ 316,000人	△ 53.3%	100.0%
外国客	0 人	254,000 人	△ 254,000人	皆減	0.0%
合計	277,300 人	847,300 人	△ 570,000人	△ 67.3%	100.0%

平成29年度～令和2年度入域観光客数



国内客 入域状況

7月は、Go Toトラベルが始まり4連休にも恵まれたものの、航空路線の運休・減便や新型コロナウイルス感染症の影響による旅行自粛などから、前年同月を大きく下回った。
 8月は、7月末に「沖縄県緊急事態宣言」が発出され、県外からの慎重な渡航を呼びかけていること、また、航空路線の運休・減便が継続されていることなどから、厳しい状況が続くと予想される。

外国客 入域状況

7月は、新型コロナウイルス感染症の拡大の防止の観点から、引き続き台湾、中国、香港、韓国を含む国や地域を対象とした日本への入国制限措置がとられたことなどから、皆減となった。
 8月も台湾、中国、香港、韓国を含む国や地域に対する日本への入国制限措置がとられていることなどから、厳しい状況が続くと予想される。

国内客 地域別入域状況

区分	R2年度	R1年度	増減数	増減率	構成比
東京方面	139,600 人	330,800 人	△ 191,200人	△ 57.8%	50.3%
関西方面	64,800 人	134,600 人	△ 69,800人	△ 51.9%	23.4%
福岡方面	36,000 人	78,500 人	△ 42,500人	△ 54.1%	13.0%
名古屋	23,000 人	55,700 人	△ 32,700人	△ 58.7%	8.3%
その他	13,900 人	61,200 人	△ 47,300人	△ 77.3%	5.0%
合計	277,300 人	660,800 人	△ 383,500人	△ 58.0%	100.0%

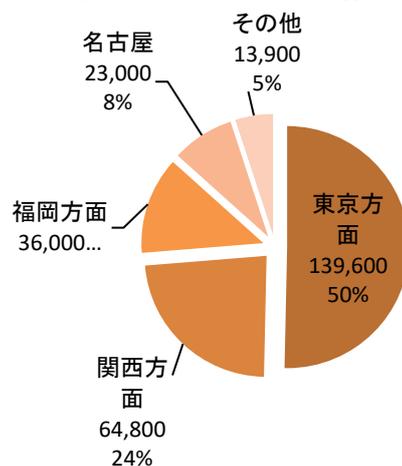
※国内海路客200人を含む(鹿児島200人)

外国客 国籍別入域状況

増減数及び増減率は、乗務員等を含む数値の比較

区分	R2年度	R2年度	R1年度	増減数	増減率	構成比
	(乗務員等含む)	(乗務員等除く)	(乗務員等含む)			
台湾	0 人	0 人	104,200 人	△ 104,200人	皆減	N/A
韓国	0 人	0 人	39,700 人	△ 39,700人	皆減	N/A
中国本土	0 人	0 人	71,600 人	△ 71,600人	皆減	N/A
香港	0 人	0 人	32,000 人	△ 32,000人	皆減	N/A
アメリカ	0 人	0 人	3,800 人	△ 3,800人	皆減	N/A
タイ	0 人	0 人	2,900 人	△ 2,900人	皆減	N/A
シンガポール	0 人	0 人	1,300 人	△ 1,300人	皆減	N/A
その他	0 人	0 人	47,300 人	△ 47,300人	皆減	N/A
合計	0 人	0 人	302,800 人	△ 302,800人	皆減	N/A

国内客の地域構成比



外国客 空路・海路の国籍別入域状況

増減率は、乗務員等を含む数値の比較

区分	空路				海路			
	観光客数 (乗務員等含む)	観光客数 (乗務員等除く)	増減率	構成比	観光客数 (乗務員等含む)	観光客数 (乗務員等除く)	増減率	構成比
台湾	0 人	0 人	皆減	N/A	0 人	0 人	皆減	N/A
韓国	0 人	0 人	皆減	N/A	0 人	0 人	皆減	N/A
中国本土	0 人	0 人	皆減	N/A	0 人	0 人	皆減	N/A
香港	0 人	0 人	皆減	N/A	0 人	0 人	皆減	N/A
アメリカ	0 人	0 人	皆減	N/A	0 人	0 人	皆減	N/A
タイ	0 人	0 人	皆減	N/A	0 人	0 人	皆減	N/A
シンガポール	0 人	0 人	皆減	N/A	0 人	0 人	皆減	N/A
その他	0 人	0 人	皆減	N/A	0 人	0 人	皆減	N/A
合計	0 人	0 人	皆減	N/A	0 人	0 人	皆減	N/A

各方面ごとの概況と見通し

東京

7月は、前年同月比で57.8%減の139,600人であった。成田－那覇路線などの運休・減便に加えて、7月16日から東京都による都民の都外への移動自粛要請があったことなどから、前年同月を大きく下回った。

8月は、成田－那覇路線などの運休・減便や東京都による都民の都外への移動自粛要請が引き続き行われていることなどから、厳しい状況が続くと見込まれる。

関西

7月は、前年同月比51.9%減の64,800人で、主要方面別で最も減少率が低かった。関西－那覇路線などで減便があったことなどから、前年同月を大きく下回った。

8月は、関西－宮古路線などで復便されているものの、関西－那覇路線などは減便が継続されることなどから、厳しい状況が続くと予想される。

福岡

7月は、前年同月比54.1%減の36,000人であった。福岡－宮古路線が運休、福岡－那覇路線などで減便があったことなどから、前年同月を大きく下回った。

8月は、福岡－那覇、宮古路線で減便が継続されることなどから、厳しい状況が続くと予想される。

名古屋

7月は、前年同月比58.7%減の23,000人で、主要方面別では最も減少率が高かった。中部－那覇路線などで減便があったことなどから、前年同月を大きく下回った。

8月は、中部－宮古路線などで復便されているものの、中部－那覇路線で減便が継続されることなどから、厳しい状況が続くと予想される。

台湾

7月も台湾(台北、台中、高雄)－沖縄(那覇、石垣)4路線が全て運休になっていること、また、3月17日以降、日本への渡航警戒レベルが引き上げられていることに加え、4月3日以降、台湾が入国制限措置の対象となっていることなどから、前年同月104,200人から皆減となった。

8月は、航空路線の運休やクルーズ船の運航停止、日本へ入国制限措置が引き続き見込まれることなどから、厳しい状況が続くと予想される。

韓国

7月も韓国(ソウル、釜山、大邱)－那覇3路線が全て運休になっていること、日本において4月3日以降、韓国が入国制限措置の対象となっていることなどから、前年同月39,700人から皆減となった。

8月は、航空路線の運休や3月9日以降の韓国からの航空便の到着空港限定、日本への入国制限措置が引き続き見込まれることなどから、厳しい状況が続くと予想される。

中国本土

7月も、中国(上海、北京、天津、杭州、南京、重慶)－那覇6路線が全て運休になっていること、また、4月3日以降、中国が入国制限措置の対象となっていることなどから、前年同月の71,600人から皆減となった。

8月は、航空路線の運休や3月9日以降の中国からの航空便の到着空港限定、クルーズ船の運航停止、日本への入国制限措置が引き続き見込まれることなどから、厳しい状況が続くと予想される。

香港

7月も香港－沖縄(那覇、石垣、下地島)3路線が全て運休になっていること、また、3月17日以降、香港政府が海外への渡航レベルを引き上げ自粛を要請していることに加え、4月3日以降、香港が入国制限措置の対象となっていることから、前年同月の32,000人から皆減となった。

8月は、日本への入国制限措置の対象地域とされていること、また、航空路線の運休やクルーズ船の運航停止が引き続き見込まれることなどから、厳しい状況が続くと予想される。

令和2年(2020)8月 入域観光客数概況

20万2,800人
対前年(R1)同月比 -81万8,400人、-80.1%
～対前年同月比で過去最大の減少数～

入域状況

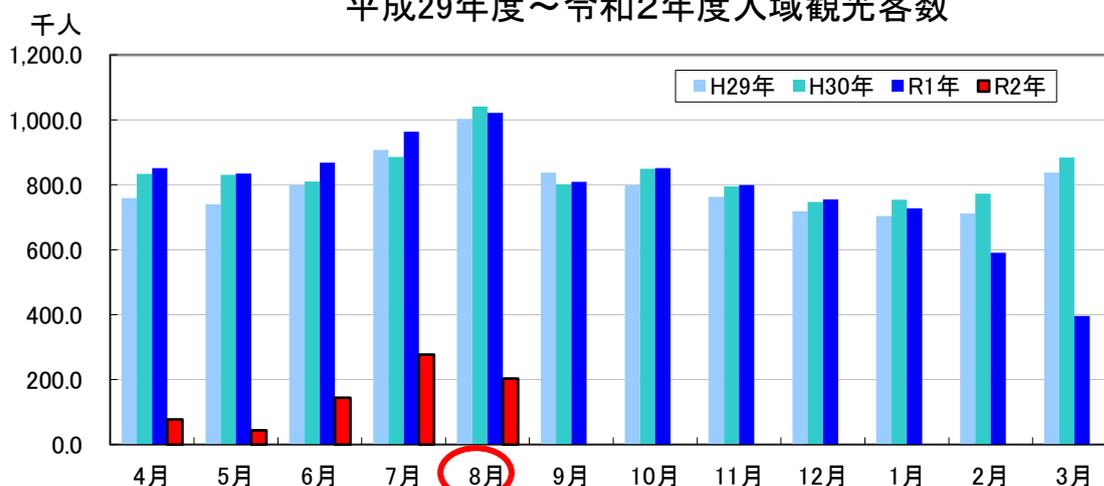
入域観光客数(令和元年度との比較) ※外国客については、乗務員等を**含む**

区分	R2年度	R1年度	増減数	増減率	構成比
国内客	202,800 人	738,300 人	△ 535,500人	△ 72.5%	100.0%
外国客	0 人	282,900 人	△ 282,900人	皆減	0.0%
合計	202,800 人	1,021,200 人	△ 818,400人	△ 80.1%	100.0%

【参考】入域観光客数(令和元年度との比較) ※外国客については、乗務員等を**除く**

区分	R2年度	R1年度	増減数	増減率	構成比
国内客	202,800 人	738,300 人	△ 535,500人	△ 72.5%	100.0%
外国客	0 人	246,700 人	△ 246,700人	皆減	0.0%
合計	202,800 人	985,000 人	△ 782,200人	△ 79.4%	100.0%

平成29年度～令和2年度入域観光客数



国内客 入域状況

8月は、宮古、石垣路線で回復基調を維持したものの、7月末に「沖縄県緊急事態宣言」が発出され、お盆期間を含めて県外からの慎重な渡航が呼びかけられたこと、また、航空路線の運休・減便が継続されたことなどから、前年同月を大きく下回った。

9月は、「沖縄県緊急事態宣言」の期間が9月5日まで及んだことや航空路線で運休・減便が再び拡大される予定であることなどから、厳しい状況が続くと予想される。

外国客 入域状況

8月は、新型コロナウイルス感染症の拡大の防止の観点から、引き続き台湾、中国、香港、韓国を含む国や地域を対象とした日本への入国制限措置がとられたことなどから、皆減となった。

9月も台湾、中国、香港、韓国を含む国や地域に対する日本への入国制限措置がとられていることなどから、厳しい状況が続くと予想される。

国内客 地域別入域状況

区分	R2年度	R1年度	増減数	増減率	構成比
東京方面	110,900 人	357,200 人	△ 246,300人	△ 69.0%	54.7%
関西方面	47,500 人	160,200 人	△ 112,700人	△ 70.3%	23.4%
福岡方面	20,300 人	88,300 人	△ 68,000人	△ 77.0%	10.0%
名古屋	13,900 人	64,200 人	△ 50,300人	△ 78.3%	6.9%
その他	10,200 人	68,400 人	△ 58,200人	△ 85.1%	5.0%
合計	202,800 人	738,300 人	△ 535,500人	△ 72.5%	100.0%

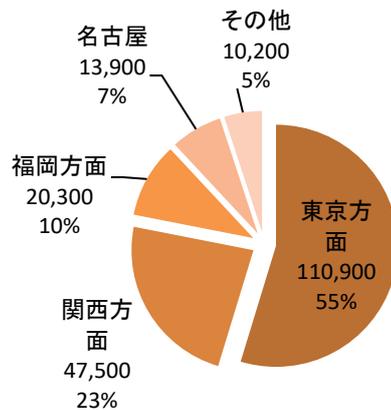
※国内海路客500人を含む(鹿児島500人)

外国客 国籍別入域状況

増減数及び増減率は、乗務員等を含む数値の比較

区分	R2年度	R2年度	R1年度	増減数	増減率	構成比
	(乗務員等含む)	(乗務員等除く)	(乗務員等含む)			
台湾	0 人	0 人	95,800 人	△ 95,800人	皆減	N/A
韓国	0 人	0 人	23,500 人	△ 23,500人	皆減	N/A
中国本土	0 人	0 人	81,300 人	△ 81,300人	皆減	N/A
香港	0 人	0 人	29,900 人	△ 29,900人	皆減	N/A
アメリカ	0 人	0 人	2,700 人	△ 2,700人	皆減	N/A
タイ	0 人	0 人	2,100 人	△ 2,100人	皆減	N/A
シンガポール	0 人	0 人	1,300 人	△ 1,300人	皆減	N/A
その他	0 人	0 人	46,300 人	△ 46,300人	皆減	N/A
合計	0 人	0 人	282,900 人	△ 282,900人	皆減	N/A

国内客の地域構成比



外国客 空路・海路の国籍別入域状況

増減率は、乗務員等を含む数値の比較

区分	空路				海路			
	観光客数 (乗務員等含む)	観光客数 (乗務員等除く)	増減率	構成比	観光客数 (乗務員等含む)	観光客数 (乗務員等除く)	増減率	構成比
台湾	0 人	0 人	皆減	N/A	0 人	0 人	皆減	N/A
韓国	0 人	0 人	皆減	N/A	0 人	0 人	皆減	N/A
中国本土	0 人	0 人	皆減	N/A	0 人	0 人	皆減	N/A
香港	0 人	0 人	皆減	N/A	0 人	0 人	皆減	N/A
アメリカ	0 人	0 人	皆減	N/A	0 人	0 人	皆減	N/A
タイ	0 人	0 人	皆減	N/A	0 人	0 人	皆減	N/A
シンガポール	0 人	0 人	皆減	N/A	0 人	0 人	皆減	N/A
その他	0 人	0 人	皆減	N/A	0 人	0 人	皆減	N/A
合計	0 人	0 人	皆減	N/A	0 人	0 人	皆減	N/A

各方面ごとの概況と見通し

東京

8月は、前年同月比で69.0%減の110,900人で、主要方面別で最も減少率が低かった。成田－石垣線などの離島路線で回復基調を維持したものの、7月16日以降、東京都による都民の都外への移動自粛要請があったことなどから、前年同月を大きく下回った。

9月は、羽田－那覇路線などで減便拡大の予定があることや9月10日まで東京都による都民の都外への移動自粛要請が引き続き行われていたことなどから、厳しい状況が続くと見込まれる。

関西

8月は、前年同月比70.3%減の47,500人であった。関西－宮古路線などの離島路線で回復基調を維持したものの、関西－那覇路線などで減便が継続されたことなどから、前年同月を大きく下回った。

9月は関西、神戸－那覇路線や関西－宮古、石垣路線で減便拡大が予定されていることなどから、厳しい状況が続くと予想される。

福岡

8月は、前年同月比77.0%減の20,300人であった。北九州－那覇路線の復便や福岡－宮古路線などの離島路線で回復基調を維持したものの、福岡－那覇路線などで減便が継続されたことなどから、前年同月を大きく下回った。

9月は、福岡－那覇、宮古路線で減便拡大や北九州－那覇路線の運休が予定されていることなどから、厳しい状況が続くと予想される。

名古屋

8月は、前年同月比78.3%減の13,900人で、主要方面別では最も減少率が高かった。中部－石垣などの離島路線で回復基調を維持したものの、中部－那覇路線の減便の継続や愛知県などで県民へ県をまたぐ移動自粛要請があったことなどから、前年同月を大きく下回った。

9月は、中部－那覇路線で減便拡大や一部運休が予定されていることなどから、厳しい状況が続くと予想される。

台湾

8月も台湾(台北、台中、高雄)－沖縄(那覇、石垣)4路線が全て運休になっていること、また、3月17日以降、日本への渡航警戒レベルが引き上げられていることに加え、4月3日以降、台湾が入国制限措置の対象となっていることなどから、前年同月95,800人から皆減となった。

9月は、航空路線の運休やクルーズ船の運航停止、日本へ入国制限措置が引き続き見込まれることなどから、厳しい状況が続くと予想される。

韓国

8月も韓国(ソウル、釜山、大邱)－那覇3路線が全て運休になっていること、日本において4月3日以降、韓国が入国制限措置の対象となっていることなどから、前年同月23,500人から皆減となった。

9月は、航空路線の運休や3月9日以降の韓国からの航空便の到着空港限定、日本への入国制限措置が引き続き見込まれることなどから、厳しい状況が続くと予想される。

中国本土

8月も、中国(上海、北京、天津、杭州、南京、重慶)－那覇6路線が全て運休になっていること、また、4月3日以降、中国が入国制限措置の対象となっていることなどから、前年同月の81,300人から皆減となった。

9月は、航空路線の運休や3月9日以降の中国からの航空便の到着空港限定、クルーズ船の運航停止、日本への入国制限措置が引き続き見込まれることなどから、厳しい状況が続くと予想される。

香港

8月も香港－沖縄(那覇、石垣、下地島)3路線が全て運休になっていること、また、3月17日以降、香港政府が海外への渡航レベルを引き上げ自粛を要請していることに加え、4月3日以降、香港が入国制限措置の対象となっていることから、前年同月の29,900人から皆減となった。

9月は、日本への入国制限措置の対象地域とされていること、また、航空路線の運休やクルーズ船の運航停止が引き続き見込まれることなどから、厳しい状況が続くと予想される。

令和2年(2020)9月 入域観光客数概況

22万7,600人
対前年(R1)同月比 -58万1,700人、-71.9%
～9月としては対前年同月比で減少数、減少率ともに過去最大～

入域状況

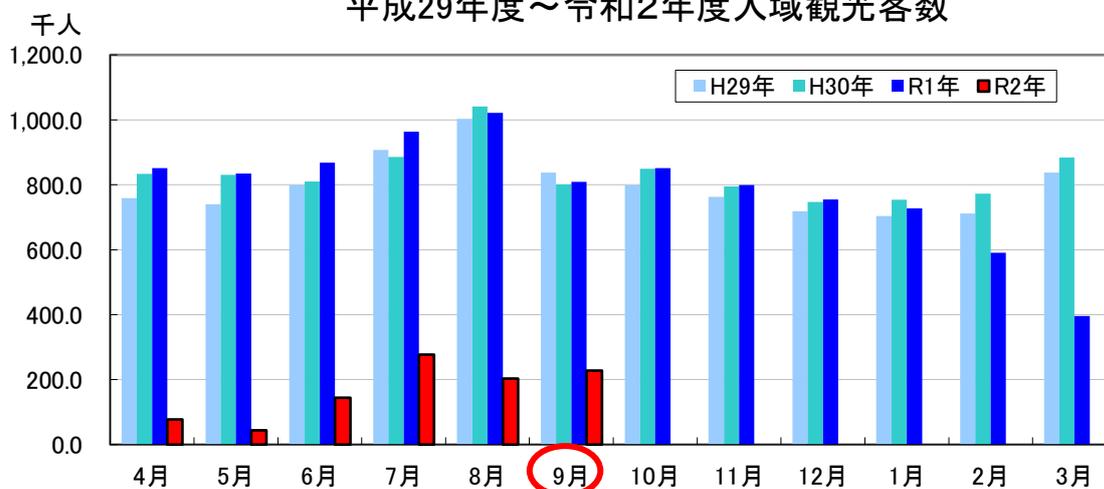
入域観光客数(令和元年度との比較) ※外国客については、乗務員等を**含む**

区分	R2年度	R1年度	増減数	増減率	構成比
国内客	227,600 人	590,600 人	△ 363,000人	△ 61.5%	100.0%
外国客	0 人	218,700 人	△ 218,700人	皆減	0.0%
合計	227,600 人	809,300 人	△ 581,700人	△ 71.9%	100.0%

【参考】入域観光客数(令和元年度との比較) ※外国客については、乗務員等を**除く**

区分	R2年度	R1年度	増減数	増減率	構成比
国内客	227,600 人	590,600 人	△ 363,000人	△ 61.5%	100.0%
外国客	0 人	188,200 人	△ 188,200人	皆減	0.0%
合計	227,600 人	778,800 人	△ 551,200人	△ 70.8%	100.0%

平成29年度～令和2年度入域観光客数



国内客 入域状況

9月は、持ち直しの動きがみられたものの、「沖縄県緊急事態宣言」の期間が9月5日まで及んだことや航空路線で運休・減便が再び拡大されたことなどから、前年同月を大きく下回った。

10月は、Go To トラベル事業の対象に東京都が追加されたことや航空路線の新規開設があることから、一定の回復が期待されるものの、航空路線の運休・減便が継続予定であることなどから、厳しい状況が続くと予想される。

外国客 入域状況

9月は、新型コロナウイルス感染症の拡大の防止の観点から、引き続き台湾、中国、香港、韓国を含む国や地域から日本への入国制限措置がとられたことなどから、皆減となった。

10月も台湾、中国、香港、韓国を含む国や地域から日本への入国制限措置が引き続きとられていることなどから、厳しい状況が続くと予想される。

国内客 地域別入域状況

区分	R2年度	R1年度	増減数	増減率	構成比
東京方面	120,800 人	296,100 人	△ 175,300人	△ 59.2%	53.1%
関西方面	50,400 人	122,000 人	△ 71,600人	△ 58.7%	22.1%
福岡方面	26,800 人	72,600 人	△ 45,800人	△ 63.1%	11.8%
名古屋	18,600 人	48,500 人	△ 29,900人	△ 61.6%	8.2%
その他	11,000 人	51,400 人	△ 40,400人	△ 78.6%	4.8%
合計	227,600 人	590,600 人	△ 363,000人	△ 61.5%	100.0%

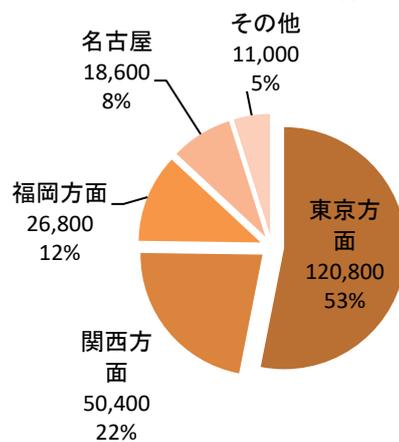
※国内海路客1,000人を含む(鹿児島1,000人)

外国客 国籍別入域状況

増減数及び増減率は、乗務員等を含む数値の比較

区分	R2年度	R2年度	R1年度	増減数	増減率	構成比
	(乗務員等含む)	(乗務員等除く)	(乗務員等含む)			
台湾	0 人	0 人	79,600 人	△ 79,600人	皆減	N/A
韓国	0 人	0 人	8,400 人	△ 8,400人	皆減	N/A
中国本土	0 人	0 人	65,300 人	△ 65,300人	皆減	N/A
香港	0 人	0 人	21,300 人	△ 21,300人	皆減	N/A
アメリカ	0 人	0 人	2,900 人	△ 2,900人	皆減	N/A
タイ	0 人	0 人	2,200 人	△ 2,200人	皆減	N/A
シンガポール	0 人	0 人	1,600 人	△ 1,600人	皆減	N/A
その他	0 人	0 人	37,400 人	△ 37,400人	皆減	N/A
合計	0 人	0 人	218,700 人	△ 218,700人	皆減	N/A

国内客の地域構成比



外国客 空路・海路の国籍別入域状況

増減率は、乗務員等を含む数値の比較

区分	空路				海路			
	観光客数 (乗務員等含む)	観光客数 (乗務員等除く)	増減率	構成比	観光客数 (乗務員等含む)	観光客数 (乗務員等除く)	増減率	構成比
台湾	0 人	0 人	皆減	N/A	0 人	0 人	皆減	N/A
韓国	0 人	0 人	皆減	N/A	0 人	0 人	皆減	N/A
中国本土	0 人	0 人	皆減	N/A	0 人	0 人	皆減	N/A
香港	0 人	0 人	皆減	N/A	0 人	0 人	皆減	N/A
アメリカ	0 人	0 人	皆減	N/A	0 人	0 人	皆減	N/A
タイ	0 人	0 人	皆減	N/A	0 人	0 人	皆減	N/A
シンガポール	0 人	0 人	皆減	N/A	0 人	0 人	皆減	N/A
その他	0 人	0 人	皆減	N/A	0 人	0 人	皆減	N/A
合計	0 人	0 人	皆減	N/A	0 人	0 人	皆減	N/A

各方面ごとの概況と見通し

東京

9月は、前年同月比で59.2%減の120,800人であった。羽田－石垣線などの本土と先島諸島を結ぶ路線で持ち直しの動きがみられたものの、羽田－那覇路線などで減便拡大があったことなどから、前年同月を大きく下回った。

10月は、10月1日からGo Toトラベル事業の対象に東京都が追加されたことや10月25日から羽田－下地島路線が新規開設がされることから一定の回復が予想されるものの、羽田－那覇路線などで減便が継続されていることなどから厳しい状況が続くと予想される。

関西

9月は、前年同月比58.7%減の50,400人で、主要方面別で最も減少率が低かった。関西－石垣路線などの本土と先島諸島を結ぶ路線で持ち直しの動きがみられたものの、関西－那覇路線などで減便拡大があったことなどから、前年同月を大きく下回った。

10月は、10月25日から神戸－下地島路線が新規開設されるものの、関西、神戸－那覇路線などで減便が継続されていることなどから、厳しい状況が続くと予想される。

福岡

9月は、前年同月比63.1%減の26,800人で、主要方面別では最も減少率が高かった。福岡－石垣路線で持ち直しの動きがみられたものの、福岡－那覇路線などで減便拡大があったことや北九州－那覇路線で運休されたことなどから、前年同月を大きく下回った。

10月は、福岡－那覇路線などでの減便が継続されていることなどから、厳しい状況が続くと予想される。

名古屋

9月は、前年同月比61.6%減の18,600人であった。中部－石垣などの本土と先島諸島を結ぶ路線で持ち直しの動きがみられたものの、中部－那覇路線の減便拡大があったことなどから、前年同月を大きく下回った。

10月は、中部－那覇路線で減便が継続されていることなどから、厳しい状況が続くと予想される。

台湾

9月も台湾(台北、台中、高雄)－沖縄(那覇、石垣)4路線が全て運休になっていること、また、3月17日以降、日本への渡航警戒レベルが引き上げられていることに加え、4月3日以降、台湾が入国制限措置の対象となっていることなどから、前年同月79,600人から皆減となった。

10月は、航空路線の運休やクルーズ船の運航停止、日本へ入国制限措置が引き続き見込まれることなどから、厳しい状況が続くと予想される。

韓国

9月も韓国(ソウル、釜山、大邱)－那覇3路線が全て運休になっていること、日本において4月3日以降、韓国が入国制限措置の対象となっていることなどから、前年同月8,400人から皆減となった。

10月は、航空路線の運休や3月9日以降の韓国からの航空便の到着空港限定、日本への入国制限措置が引き続き見込まれることなどから、厳しい状況が続くと予想される。

中国本土

9月も、中国(上海、北京、天津、杭州、南京、重慶)－那覇6路線が全て運休になっていること、また、4月3日以降、中国が入国制限措置の対象となっていることなどから、前年同月の65,300人から皆減となった。

10月は、航空路線の運休や3月9日以降の中国からの航空便の到着空港限定、クルーズ船の運航停止、日本への入国制限措置が引き続き見込まれることなどから、厳しい状況が続くと予想される。

香港

9月も香港－沖縄(那覇、石垣、下地島)3路線が全て運休になっていること、また、3月17日以降、香港政府が海外への渡航レベルを引き上げ自粛を要請していることに加え、4月3日以降、香港が入国制限措置の対象となっていることから、前年同月の21,300人から皆減となった。

10月は、日本への入国制限措置の対象地域とされていること、また、航空路線の運休やクルーズ船の運航停止が引き続き見込まれることなどから、厳しい状況が続くと予想される。

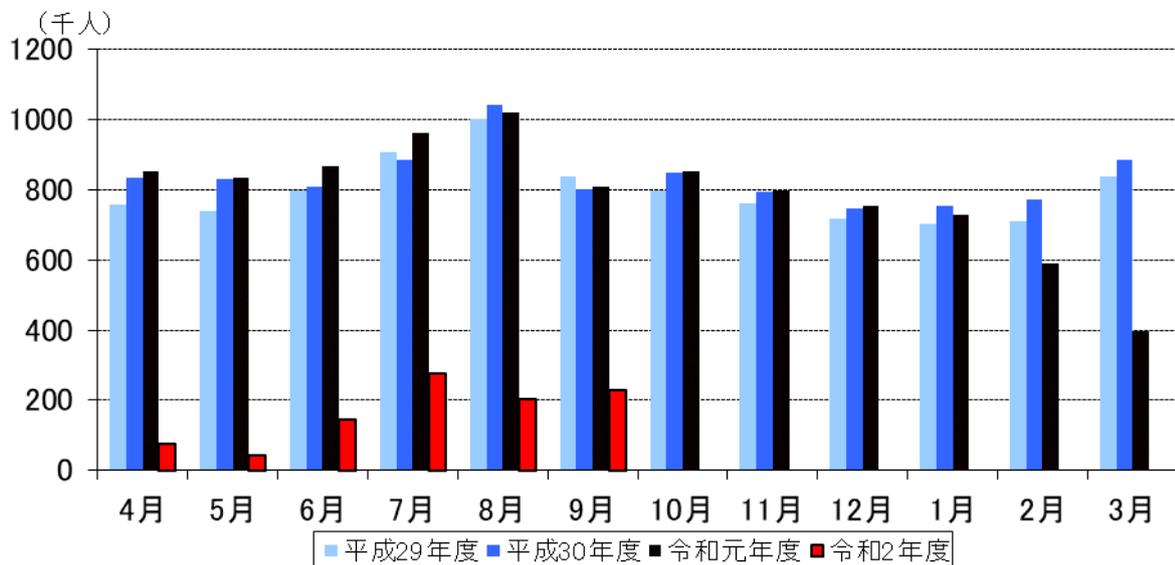
令和2年度上半期 沖縄県入域観光客統計概況

文化観光スポーツ部 観光政策課
令和2年10月発表

令和2年度上半期 97万3,100人
対前年度(R1)比 -437万5,500人、-81.8%
減少数、減少率ともに過去最大

入域観光客数（国内+外国）

■月別入域観光客数の推移（平成29年度～令和2年度）



■令和2年度上半期入域観光客の状況（令和元年度との比較）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	上半期計
令和2年度	77,300	44,000	144,100	277,300	202,800	227,600	973,100
令和元年度	851,400	834,900	868,200	963,600	1,021,200	809,300	5,348,600
増減数	-774,100	-790,900	-724,100	-686,300	-818,400	-581,700	-4,375,500
増減率	-90.9%	-94.7%	-83.4%	-71.2%	-80.1%	-71.9%	-81.8%

■令和2年度上半期の概況（総括）

令和2年度上半期の入域観光客数は、97万3,100人となり、対前年同期比で437万5,500人、率にして81.8%の減となり、減少数、減少率ともに過去最大となった。

国内観光客については、新型コロナウイルス感染症が拡大する中、4月から5月にかけて国の緊急事態宣言による旅行自粛要請があったことなどから、前年同期を大きく下回った。

また、外国人観光客については、諸外国による日本への渡航制限や4月3日より海外から日本への入国制限措置がとられたことなどから皆減となった。

国内観光客についての動向

■令和2年度上半期国内観光客の状況（令和元年度上半期との比較）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	上半期計
令和2年度	77,300	44,000	144,100	277,300	202,800	227,600	973,100
令和元年度	601,100	566,500	569,800	660,800	738,300	590,600	3,727,100
増減数	-523,800	-522,500	-425,700	-383,500	-535,500	-363,000	-2,754,000
増減率	-87.1%	-92.2%	-74.7%	-58.0%	-72.5%	-61.5%	-73.9%

■国内観光客の概況

新型コロナウイルス感染症の感染拡大を受け、4月、5月は国や沖縄県から緊急事態宣言が発出され、不要不急の旅行自粛要請があったこと、また、8月から9月上旬にかけては2度目の沖縄県緊急事態宣言が発出され県外からの慎重な渡航が呼びかけられたことなどから前年同期を大きく下回った。

下半期は、10月1日からGo Toトラベル事業の対象に東京都が追加されたことや10月25日から羽田、神戸ー下地島路線が新規開設されることなど明るい材料もある中、航空便の予約状況が改善する動きが見られるものの、新型コロナウイルス感染症が収束するまでは旅行を控える動きが引き続き予想されることなどから、厳しい状況が予想される。

外国人観光客についての動向

■令和2年度上半期外国人観光客の状況（令和元年度上半期との比較）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	上半期計
令和2年度	0	0	0	0	0	0	0
令和元年度	250,300	268,400	298,400	302,800	282,900	218,700	1,621,500
増減数	-250,300	-268,400	-298,400	-302,800	-282,900	-218,700	-1,621,500
増減率	-100.0%	-100.0%	-100.0%	-100.0%	-100.0%	-100.0%	-100.0%

■外国人観光客の概況

新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、4月3日以降、台湾、中国、韓国を含む国や地域から日本への入国制限措置がとられたことなどから上半期外国人客数は皆減となった。

下半期は、航空路線の運休やクルーズ船の運航停止、日本への入国制限措置が当分の間、講じられることが見込まれることから、厳しい状況が予想される。

令和2年(2020)10月 入域観光客数概況

34万1,200人
対前年(R1)同月比 -51万100人、-59.9%
～10月としては対前年同月比で過去最大の減少～

入域状況

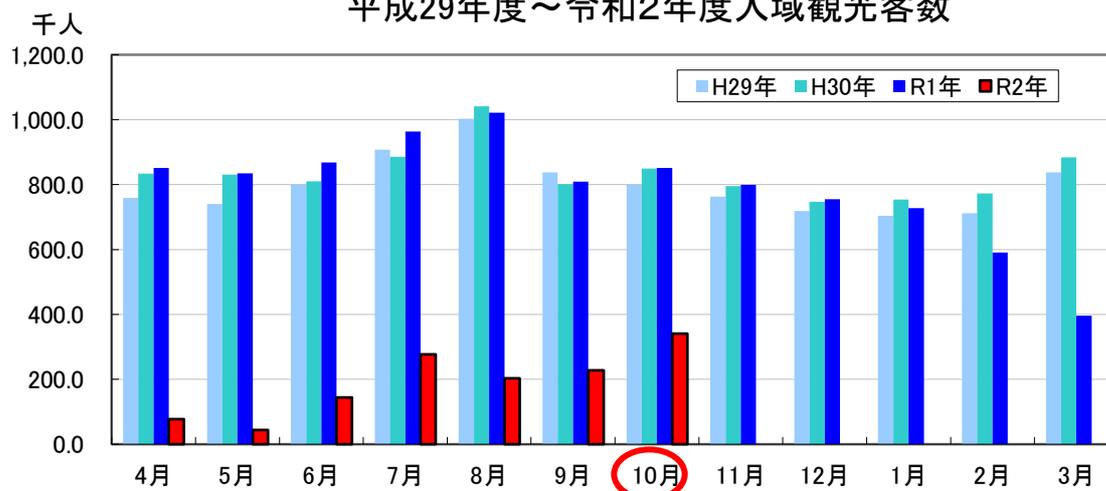
入域観光客数(令和元年度との比較) ※外国客については、乗務員等を**含む**

区分	R2年度	R1年度	増減数	増減率	構成比
国内客	341,200 人	620,800 人	△ 279,600人	△ 45.0%	100.0%
外国客	0 人	230,500 人	△ 230,500人	皆減	0.0%
合計	341,200 人	851,300 人	△ 510,100人	△ 59.9%	100.0%

【参考】入域観光客数(令和元年度との比較) ※外国客については、乗務員等を**除く**

区分	R2年度	R1年度	増減数	増減率	構成比
国内客	341,200 人	620,800 人	△ 279,600人	△ 45.0%	100.0%
外国客	0 人	195,700 人	△ 195,700人	皆減	0.0%
合計	341,200 人	816,500 人	△ 475,300人	△ 58.2%	100.0%

平成29年度～令和2年度入域観光客数



国内客 入域状況

10月は、Go To トラベルの対象に東京都が追加されたことや航空路線の新規開設があったことなどから、特に本土と先島諸島とを結ぶ路線で回復したものの、新型コロナウイルス感染症のため旅行を控える動きが影響したことなどから、前年同月を大きく下回った。

11月は、厳しい状況が続くものの、航空路線の運休・減便の規模が縮小され、回復傾向が継続するものと予想される。

外国客 入域状況

10月は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から、引き続き台湾、中国、香港、韓国を含む国や地域が日本への上陸拒否の対象とされたことなどから、皆減となった。

11月は、台湾、中国、香港、韓国を含む国や地域が日本への上陸拒否の対象から外れたものの、観光目的での日本への入国制限措置が引き続きとられていることなどから、厳しい状況が続くと予想される。

国内客 地域別入域状況

区分	R2年度	R1年度	増減数	増減率	構成比
東京方面	180,900 人	300,100 人	△ 119,200人	△ 39.7%	53.0%
関西方面	73,000 人	119,100 人	△ 46,100人	△ 38.7%	21.4%
福岡方面	40,200 人	80,700 人	△ 40,500人	△ 50.2%	11.8%
名古屋	29,000 人	55,300 人	△ 26,300人	△ 47.6%	8.5%
その他	18,100 人	65,600 人	△ 47,500人	△ 72.4%	5.3%
合計	341,200 人	620,800 人	△ 279,600人	△ 45.0%	100.0%

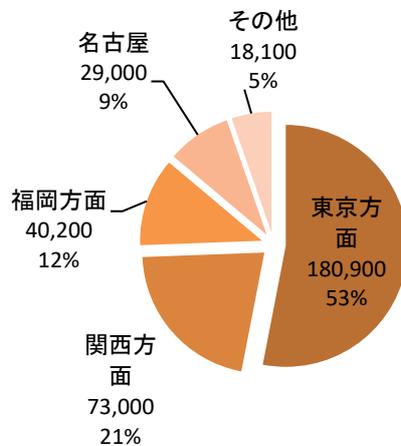
※国内海路客1,000人を含む(鹿児島1,000人)

外国客 国籍別入域状況

増減数及び増減率は、乗務員等を含む数値の比較

区分	R2年度	R2年度	R1年度	増減数	増減率	構成比
	(乗務員等含む)	(乗務員等除く)	(乗務員等含む)			
台湾	0 人	0 人	73,800 人	△ 73,800人	皆減	N/A
韓国	0 人	0 人	7,900 人	△ 7,900人	皆減	N/A
中国本土	0 人	0 人	73,700 人	△ 73,700人	皆減	N/A
香港	0 人	0 人	22,300 人	△ 22,300人	皆減	N/A
アメリカ	0 人	0 人	3,700 人	△ 3,700人	皆減	N/A
タイ	0 人	0 人	3,100 人	△ 3,100人	皆減	N/A
シンガポール	0 人	0 人	2,400 人	△ 2,400人	皆減	N/A
その他	0 人	0 人	43,600 人	△ 43,600人	皆減	N/A
合計	0 人	0 人	230,500 人	△ 230,500人	皆減	N/A

国内客の地域構成比



外国客 空路・海路の国籍別入域状況

増減率は、乗務員等を含む数値の比較

区分	空路				海路			
	観光客数 (乗務員等含む)	観光客数 (乗務員等除く)	増減率	構成比	観光客数 (乗務員等含む)	観光客数 (乗務員等除く)	増減率	構成比
台湾	0 人	0 人	皆減	N/A	0 人	0 人	皆減	N/A
韓国	0 人	0 人	皆減	N/A	0 人	0 人	皆減	N/A
中国本土	0 人	0 人	皆減	N/A	0 人	0 人	皆減	N/A
香港	0 人	0 人	皆減	N/A	0 人	0 人	皆減	N/A
アメリカ	0 人	0 人	皆減	N/A	0 人	0 人	皆減	N/A
タイ	0 人	0 人	皆減	N/A	0 人	0 人	皆減	N/A
シンガポール	0 人	0 人	皆減	N/A	0 人	0 人	皆減	N/A
その他	0 人	0 人	皆減	N/A	0 人	0 人	皆減	N/A
合計	0 人	0 人	皆減	N/A	0 人	0 人	皆減	N/A

各方面ごとの概況と見通し

東京

10月は、前年同月比で39.7%減の180,900人であった。Go To トラベルの東京都追加や羽田ー下地島路線の新規開設などから、先島諸島とを結ぶ路線で対前年同月に近い水準に回復したものの、羽田ー那覇路線などで減便が継続されたことなどから、前年同月を大きく下回った。
11月は、厳しい状況が続くものの、羽田ー那覇路線などで減便規模が縮小され、回復傾向が継続するものと予想される。

関西

10月は、前年同月比38.7%減の73,000人で、主要方面別で最も減少率が低かった。神戸ー下地島路線の新規開設などから、先島諸島とを結ぶ路線で対前年同月に近い水準に回復したものの、関西ー那覇路線などで減便が継続されたことなどから、前年同月を大きく下回った。
11月は、厳しい状況が続くものの、神戸ー那覇路線などで減便規模が縮小され、回復傾向が継続するものと予想される。

福岡

10月は、前年同月比50.2%減の40,200人で、主要方面別では最も減少率が高かった。福岡ー石垣路線などで回復したものの、福岡ー那覇路線などで減便規模の拡大があったことや北九州ー那覇路線が運休されていることなどから、前年同月を大きく下回った。
11月は、厳しい状況が続くものの、福岡ー那覇路線で減便規模が縮小され、回復傾向が継続するものと予想される。

名古屋

10月は、前年同月比47.6%減の29,000人であった。特に先島諸島を結ぶ路線で回復したものの、中部ー那覇路線で減便が継続されたことなどから、前年同月を大きく下回った。
11月は、厳しい状況が続くものの、中部ー那覇路線で減便規模が縮小され、回復傾向が継続するものと予想される。

台湾

10月も台湾(台北、台中、高雄)ー沖縄(那覇、石垣)4路線が全て運休になっていることに加えて、4月3日以降、台湾が日本への上陸拒否の対象となっていたことなどから、前年同月73,800人から皆減となった。
11月は、航空路線の運休やクルーズ船の運航停止、観光目的での日本への入国制限措置が引き続きとられていることなどから、厳しい状況が続くと予想される。

韓国

10月も韓国(ソウル、釜山、大邱)ー那覇3路線が全て運休になっていること、日本において4月3日以降、韓国が日本への上陸拒否の対象となっていたことなどから、前年同月7,900人から皆減となった。
11月は、航空路線の運休や観光目的での日本への入国制限措置が引き続きとられていることなどから、厳しい状況が続くと予想される。

中国本土

10月も、中国(上海、北京、天津、杭州、南京、重慶)ー那覇6路線が全て運休になっていること、また、4月3日以降、中国が日本への上陸拒否の対象となっていたことなどから、前年同月の73,700人から皆減となった。
11月は、航空路線の運休やクルーズ船の運航停止、観光目的での日本への入国制限措置が引き続きとられていることなどから、厳しい状況が続くと予想される。

香港

10月も香港ー沖縄(那覇、石垣、下地島)3路線が全て運休になっていることに加えて、4月3日以降、香港が日本への上陸拒否の対象となっていたことから、前年同月の22,300人から皆減となった。
11月は、航空路線の運休やクルーズ船の運航停止、観光目的での日本への入国制限措置が引き続きとられていることなどから、厳しい状況が続くと予想される。

令和2年(2020)11月 入域観光客数概況

38万1,100人
対前年(R1)同月比 -41万8,100人、-52.3%
～11月としては対前年同月比で過去最大の減少～

入域状況

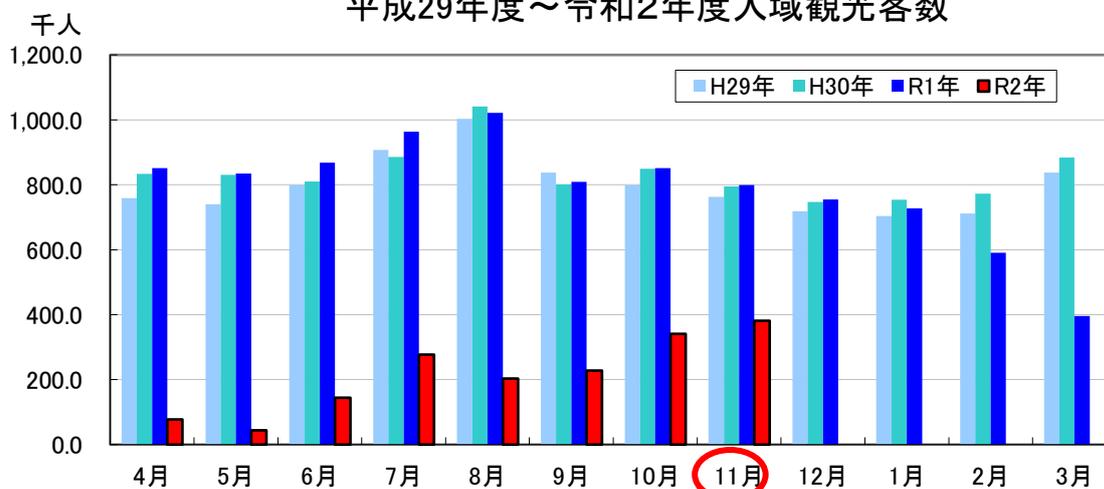
入域観光客数(令和元年度との比較) ※外国客については、乗務員等を**含む**

区分	R2年度	R1年度	増減数	増減率	構成比
国内客	381,100 人	600,100 人	△ 219,000人	△ 36.5%	100.0%
外国客	0 人	199,100 人	△ 199,100人	皆減	0.0%
合計	381,100 人	799,200 人	△ 418,100人	△ 52.3%	100.0%

【参考】入域観光客数(令和元年度との比較) ※外国客については、乗務員等を**除く**

区分	R2年度	R1年度	増減数	増減率	構成比
国内客	381,100 人	600,100 人	△ 219,000人	△ 36.5%	100.0%
外国客	0 人	164,900 人	△ 164,900人	皆減	0.0%
合計	381,100 人	765,000 人	△ 383,900人	△ 50.2%	100.0%

平成29年度～令和2年度入域観光客数



国内客 入域状況

11月は、今年度、国内客が対前年同月比ではじめて6割を超えた。また、県外と先島諸島とを結ぶ路線では前年同月を上回る回復があった。しかし、航空路線における減便や新型コロナウイルス感染症のため旅行を控える動きの影響などから、前年同月を大きく下回った。

12月は、航空路線における減便の継続や全国的な新型コロナウイルス感染拡大に伴う旅行自粛、年末年始のGoToトラベル事業の一時停止の影響などから、厳しい状況が予想される。

外国客 入域状況

11月は、台湾、中国、香港、韓国を含む国や地域から、観光目的での日本への入国制限措置がとられたことなどから、皆減となった。

12月も、観光目的での日本への入国制限措置が引き続きとられていることなどから、厳しい状況が続くと予想される。

国内客 地域別入域状況

区分	R2年度	R1年度	増減数	増減率	構成比
東京方面	191,700 人	291,900 人	△ 100,200人	△ 34.3%	50.3%
関西方面	83,000 人	116,900 人	△ 33,900人	△ 29.0%	21.8%
福岡方面	47,600 人	78,400 人	△ 30,800人	△ 39.3%	12.5%
名古屋	33,300 人	50,600 人	△ 17,300人	△ 34.2%	8.7%
その他	25,500 人	62,300 人	△ 36,800人	△ 59.1%	6.7%
合計	381,100 人	600,100 人	△ 219,000人	△ 36.5%	100.0%

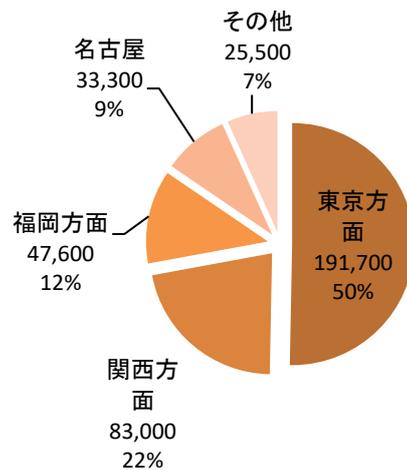
※国内海路客800人を含む(鹿児島800人)

外国客 国籍別入域状況

増減数及び増減率は、乗務員等を含む数値の比較

区分	R2年度	R2年度	R1年度	増減数	増減率	構成比
	(乗務員等含む)	(乗務員等除く)	(乗務員等含む)			
台湾	0 人	0 人	61,900 人	△ 61,900人	皆減	N/A
韓国	0 人	0 人	5,500 人	△ 5,500人	皆減	N/A
中国本土	0 人	0 人	61,700 人	△ 61,700人	皆減	N/A
香港	0 人	0 人	18,400 人	△ 18,400人	皆減	N/A
アメリカ	0 人	0 人	3,400 人	△ 3,400人	皆減	N/A
タイ	0 人	0 人	1,600 人	△ 1,600人	皆減	N/A
シンガポール	0 人	0 人	3,500 人	△ 3,500人	皆減	N/A
その他	0 人	0 人	43,100 人	△ 43,100人	皆減	N/A
合計	0 人	0 人	199,100 人	△ 199,100人	皆減	N/A

国内客の地域構成比



外国客 空路・海路の国籍別入域状況

増減率は、乗務員等を含む数値の比較

区分	空路				海路			
	観光客数 (乗務員等含む)	観光客数 (乗務員等除く)	増減率	構成比	観光客数 (乗務員等含む)	観光客数 (乗務員等除く)	増減率	構成比
台湾	0 人	0 人	皆減	N/A	0 人	0 人	皆減	N/A
韓国	0 人	0 人	皆減	N/A	0 人	0 人	皆減	N/A
中国本土	0 人	0 人	皆減	N/A	0 人	0 人	皆減	N/A
香港	0 人	0 人	皆減	N/A	0 人	0 人	皆減	N/A
アメリカ	0 人	0 人	皆減	N/A	0 人	0 人	皆減	N/A
タイ	0 人	0 人	皆減	N/A	0 人	0 人	皆減	N/A
シンガポール	0 人	0 人	皆減	N/A	0 人	0 人	皆減	N/A
その他	0 人	0 人	皆減	N/A	0 人	0 人	皆減	N/A
合計	0 人	0 人	皆減	N/A	0 人	0 人	皆減	N/A

各方面ごとの概況と見通し

東京

11月は、前年同月比34.3%減の191,700人であった。先島路線で対前年同月を超える回復があったものの、羽田－那覇路線で減便が継続されたことなどから、前年同月を大きく下回った。
12月は、成田－那覇路線で減便規模の拡大や、東京都居住者に対して、GoToトラベル事業を利用した旅行の自粛が呼びかけられている影響などから、厳しい状況が予想される。

関西

11月は、前年同月比29.0%減の83,000人で、主要方面別で最も減少率が低かった。先島路線で対前年同月を超える回復があったものの、関西－那覇路線などで減便が継続されたことなどから、前年同月を大きく下回った。
12月は、関西－那覇路線での減便継続や、大阪市居住者に対して、GoToトラベル事業を利用した旅行の自粛が呼びかけられている影響などから、厳しい状況が予想される。

福岡

11月は、前年同月比39.3%減の47,600人で、主要方面別では最も減少率が高かった。福岡－石垣路線などで回復基調を維持したものの、福岡－那覇路線で減便が継続されたことなどから、前年同月を大きく下回った。
12月は、福岡－那覇路線で減便が継続されていることなどから、厳しい状況が予想される。

名古屋

11月は、前年同月比34.2%減の33,300人であった。特に先島路線で回復したものの、中部－那覇路線で減便が継続されたことなどから、前年同月を大きく下回った。
12月は、中部－那覇路線で減便が継続されていることや、名古屋市居住者に対して、GoToトラベル事業を利用した旅行自粛が呼びかけられている影響などから、厳しい状況が予想される。

台湾

11月は、台湾(台北、台中、高雄)－那覇の3路線が全て運休になっていることに加えて、観光目的での日本への入国制限措置がとられたことなどから、前年同月61,900人から皆減となった。
12月は、航空路線の運休やクルーズ船の運航停止、観光目的での日本への入国制限措置が引き続きとられていることなどから、厳しい状況が続くと予想される。

韓国

11月は、韓国(ソウル、釜山、大邱)－那覇の3路線が全て運休になっていること、観光目的での日本への入国制限措置がとられたことなどから、前年同月5,500人から皆減となった。
12月は、航空路線の運休や観光目的での日本への入国制限措置が引き続きとられていることなどから、厳しい状況が続くと予想される。

中国本土

11月は、中国(上海、杭州、南京、青島)－那覇の4路線が全て運休になっていること、観光目的での日本への入国制限措置がとられたことなどから、前年同月61,700人から皆減となった。
12月は、航空路線の運休やクルーズ船の運航停止、観光目的での日本への入国制限措置が引き続きとられていることなどから、厳しい状況が続くと予想される。

香港

11月は、香港－那覇路線が運休になっていることに加えて、観光目的での日本への入国制限措置がとられたことなどから、前年同月18,400人から皆減となった。
12月は、航空路線の運休やクルーズ船の運航停止、観光目的での日本への入国制限措置が引き続きとられていることなどから、厳しい状況が続くと予想される。

令和2年(2020)12月 入域観光客数概況

32万6,200人
 対前年(R1)同月比 -42万8,900人、-56.8%
 ~12月としては対前年同月比で過去最大の減少数~

入域状況

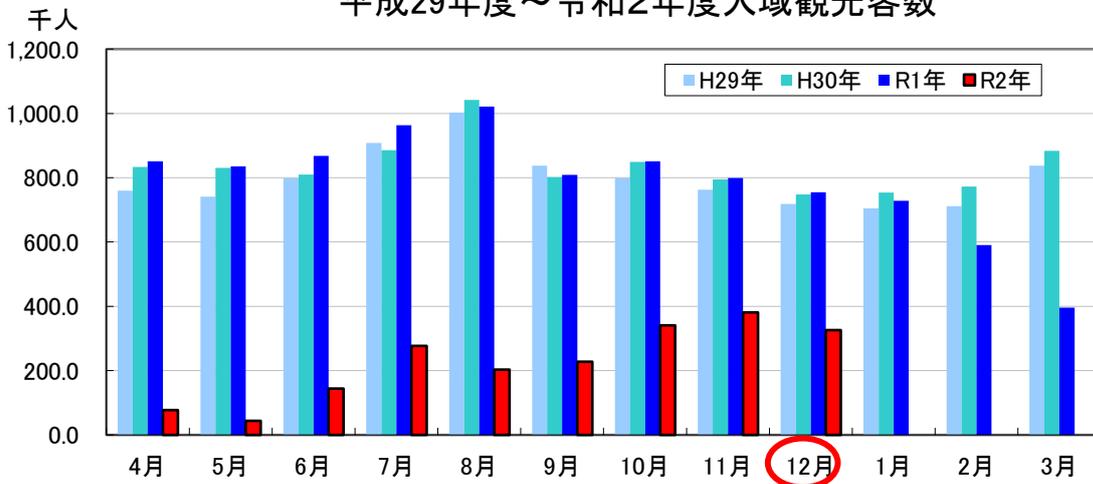
入域観光客数(令和元年度との比較) ※外国客については、乗務員等を**含む**

区分	R2年度	R1年度	増減数	増減率	構成比
国内客	326,200 人	572,700 人	△ 246,500人	△ 43.0%	100.0%
外国客	0 人	182,400 人	△ 182,400人	皆減	0.0%
合計	326,200 人	755,100 人	△ 428,900人	△ 56.8%	100.0%

【参考】入域観光客数(令和元年度との比較) ※外国客については、乗務員等を**除く**

区分	R2年度	R1年度	増減数	増減率	構成比
国内客	326,200 人	572,700 人	△ 246,500人	△ 43.0%	100.0%
外国客	0 人	157,000 人	△ 157,000人	皆減	0.0%
合計	326,200 人	729,700 人	△ 403,500人	△ 55.3%	100.0%

平成29年度～令和2年度入域観光客数



国内客 入域状況

12月は、県外空港と那覇空港とを結ぶ路線における減便や全国的な新型コロナウイルスの感染拡大に伴う旅行を控える動きの影響などから、前年同月を大きく下回った。
 1月は、航空路線における減便規模の拡大やGo Toトラベル事業の一時停止の継続、国や県の緊急事態宣言の影響などから、厳しい状況が予想される。

外国客 入域状況

12月は、台湾、中国、香港、韓国を含む国や地域から、観光目的での日本への入国制限措置がとられたことなどから、皆減となった。
 1月は、日本への入国制限措置が引き続きとられていることなどから、厳しい状況が続くと予想される。

国内客 地域別入域状況

区分	R2年度	R1年度	増減数	増減率	構成比
東京方面	164,800 人	277,900 人	△ 113,100人	△ 40.7%	50.5%
関西方面	66,600 人	114,000 人	△ 47,400人	△ 41.6%	20.4%
福岡方面	42,100 人	74,000 人	△ 31,900人	△ 43.1%	12.9%
名古屋	30,400 人	47,300 人	△ 16,900人	△ 35.7%	9.3%
その他	22,300 人	59,500 人	△ 37,200人	△ 62.5%	6.8%
合計	326,200 人	572,700 人	△ 246,500人	△ 43.0%	100.0%

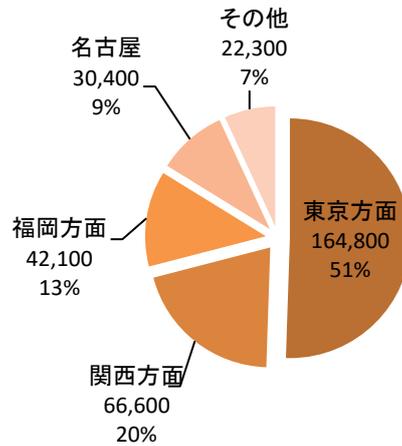
※国内海路客700人を含む(鹿児島700人)

外国客 国籍別入域状況

増減数及び増減率は、乗務員等を含む数値の比較

区分	R2年度	R2年度	R1年度	増減数	増減率	構成比
	(乗務員等含む)	(乗務員等除く)	(乗務員等含む)			
台湾	0 人	0 人	52,600 人	△ 52,600人	皆減	N/A
韓国	0 人	0 人	10,500 人	△ 10,500人	皆減	N/A
中国本土	0 人	0 人	47,400 人	△ 47,400人	皆減	N/A
香港	0 人	0 人	24,100 人	△ 24,100人	皆減	N/A
アメリカ	0 人	0 人	3,500 人	△ 3,500人	皆減	N/A
タイ	0 人	0 人	2,900 人	△ 2,900人	皆減	N/A
シンガポール	0 人	0 人	5,000 人	△ 5,000人	皆減	N/A
その他	0 人	0 人	36,400 人	△ 36,400人	皆減	N/A
合計	0 人	0 人	182,400 人	△ 182,400人	皆減	N/A

国内客の地域構成比



外国客 空路・海路の国籍別入域状況

増減率は、乗務員等を含む数値の比較

区分	空路				海路			
	観光客数 (乗務員等含む)	観光客数 (乗務員等除く)	増減率	構成比	観光客数 (乗務員等含む)	観光客数 (乗務員等除く)	増減率	構成比
台湾	0 人	0 人	皆減	N/A	0 人	0 人	皆減	N/A
韓国	0 人	0 人	皆減	N/A	0 人	0 人	皆減	N/A
中国本土	0 人	0 人	皆減	N/A	0 人	0 人	皆減	N/A
香港	0 人	0 人	皆減	N/A	0 人	0 人	皆減	N/A
アメリカ	0 人	0 人	皆減	N/A	0 人	0 人	皆減	N/A
タイ	0 人	0 人	皆減	N/A	0 人	0 人	皆減	N/A
シンガポール	0 人	0 人	皆減	N/A	0 人	0 人	皆減	N/A
その他	0 人	0 人	皆減	N/A	0 人	0 人	皆減	N/A
合計	0 人	0 人	皆減	N/A	0 人	0 人	皆減	N/A

各方面ごとの概況と見通し

東京

12月は、前年同月比40.7%減の164,800人であった。先島路線では対前年同月並みであったものの、成田－那覇路線などで減便があったことなどから、前年同月を大きく下回った。
1月は、羽田－那覇路線などでの減便規模の拡大や、国や県の緊急事態宣言の影響などから、厳しい状況が予想される。

関西

12月は、前年同月比41.6%減の66,600人であった。先島路線では対前年同月並みであったものの、関西－那覇路線などで減便があったことなどから、前年同月を大きく下回った。
1月は、関西－那覇路線などでの減便規模の拡大や、国や県の緊急事態宣言の影響などから、厳しい状況が予想される。

福岡

12月は、前年同月比43.1%減の42,100人で、主要方面別では最も減少率が高かった。福岡－石垣路線で回復基調を維持したものの、福岡－那覇路線での減便などから、前年同月を大きく下回った。
1月は、福岡－那覇路線などでの減便規模の拡大や、国や県の緊急事態宣言の影響などから、厳しい状況が予想される。

名古屋

12月は、前年同月比35.7%減の30,400人で、主要方面別で最も減少率が低かった。中部－那覇路線で減便があったことなどから、前年同月を大きく下回った。
1月は、中部－那覇路線などでの減便規模の拡大や国や県の緊急事態宣言の影響などから、厳しい状況が予想される。

台湾

12月は、台湾(台北、台中、高雄)－那覇の3路線が全て運休になっていることに加えて、観光目的での日本への入国制限措置がとられたことなどから、前年同月52,600人から皆減となった。
1月は、航空路線の運休やクルーズ船の運航停止、日本への入国制限措置が引き続きとられていることなどから、厳しい状況が続くと予想される。

韓国

12月は、韓国(ソウル、釜山、大邱)－那覇の3路線が全て運休になっていること、観光目的での日本への入国制限措置がとられたことなどから、前年同月10,500人から皆減となった。
1月は、航空路線の運休や日本への入国制限措置が引き続きとられていることなどから、厳しい状況が続くと予想される。

中国本土

12月は、中国(上海、杭州、南京、青島)－那覇の4路線が全て運休になっていること、観光目的での日本への入国制限措置がとられたことなどから、前年同月47,400人から皆減となった。
1月は、航空路線の運休やクルーズ船の運航停止、日本への入国制限措置が引き続きとられていることなどから、厳しい状況が続くと予想される。

香港

12月は、香港－那覇路線が運休になっていることに加えて、観光目的での日本への入国制限措置がとられたことなどから、前年同月24,100人から皆減となった。
1月は、航空路線の運休やクルーズ船の運航停止、日本への入国制限措置が引き続きとられていることなどから、厳しい状況が続くと予想される。

令和3年(2021)1月 入域観光客数概況

14万4,000人
対前年(R2)同月比 -58万3,800人、-80.2%
～1月としては対前年同月比で減少数、減少率ともに過去最大～

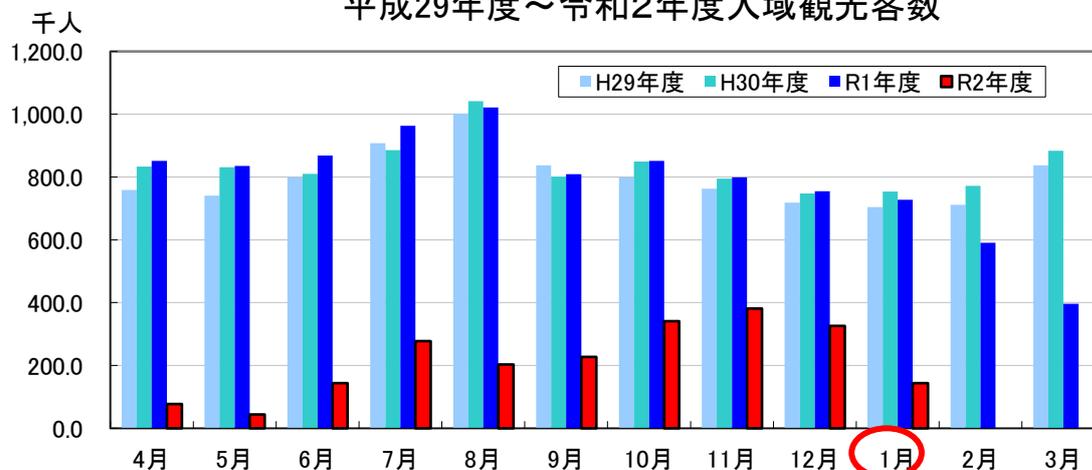
入域状況

入域観光客数(令和元年度との比較) ※外国客については、乗務員等を含む

区分	R2年度	R1年度	増減数	増減率	構成比
国内客	144,000 人	534,300 人	△ 390,300人	△ 73.0%	100.0%
外国客	0 人	193,500 人	△ 193,500人	皆減	0.0%
合計	144,000 人	727,800 人	△ 583,800人	△ 80.2%	100.0%

(参考)乗務員等を除いた入域観光客数 R2年度 144,000人 R1年度 703,500人

平成29年度～令和2年度入域観光客数



国内客 入域状況

1月は、国や県独自の緊急事態宣言が発出され、旅行や帰省を含む不要不急の移動自粛要請が行われた影響などから、前年同月を大きく下回った。

2月は、航空路線での運休・減便規模が拡大していること、また、国や県独自の緊急事態宣言やGo Toトラベル事業の一時停止が継続されている影響などから、厳しい状況が予想される。

外国客 入域状況

1月は、台湾、中国、香港、韓国を含む国や地域から、観光目的での日本への入国制限措置がとられたことなどから、引き続き皆減となった。

2月は、日本への入国制限措置がとられていることなどから、厳しい状況が続くと予想される。

国内客 地域別入域状況

区分	R2年度	R1年度	増減数	増減率	構成比
東京方面	68,400 人	259,400 人	△ 191,000人	△ 73.6%	47.5%
関西方面	28,500 人	104,700 人	△ 76,200人	△ 72.8%	19.8%
福岡方面	22,000 人	70,600 人	△ 48,600人	△ 68.8%	15.3%
名古屋	11,400 人	46,500 人	△ 35,100人	△ 75.5%	7.9%
その他	13,700 人	53,100 人	△ 39,400人	△ 74.2%	9.5%
合計	144,000 人	534,300 人	△ 390,300人	△ 73.0%	100.0%

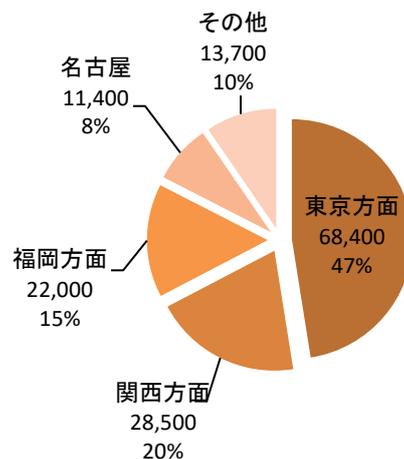
※国内海路客800人を含む(鹿児島800人)

外国客 国籍別入域状況

増減数及び増減率は、乗務員等を含む数値の比較

区分	R2年度	R2年度	R1年度	増減数	増減率	構成比
	(乗務員等含む)	(乗務員等除く)	(乗務員等含む)			
台湾	0 人	0 人	71,200 人	△ 71,200人	皆減	N/A
韓国	0 人	0 人	14,400 人	△ 14,400人	皆減	N/A
中国本土	0 人	0 人	47,100 人	△ 47,100人	皆減	N/A
香港	0 人	0 人	22,600 人	△ 22,600人	皆減	N/A
アメリカ	0 人	0 人	2,000 人	△ 2,000人	皆減	N/A
タイ	0 人	0 人	2,300 人	△ 2,300人	皆減	N/A
シンガポール	0 人	0 人	2,100 人	△ 2,100人	皆減	N/A
その他	0 人	0 人	31,800 人	△ 31,800人	皆減	N/A
合計	0 人	0 人	193,500 人	△ 193,500人	皆減	N/A

国内客の地域構成比



外国客 空路・海路の国籍別入域状況

増減率は、乗務員等を含む数値の比較

区分	空路				海路			
	観光客数 (乗務員等含む)	観光客数 (乗務員等除く)	増減率	構成比	観光客数 (乗務員等含む)	観光客数 (乗務員等除く)	増減率	構成比
台湾	0 人	0 人	皆減	N/A	0 人	0 人	皆減	N/A
韓国	0 人	0 人	皆減	N/A	0 人	0 人	皆減	N/A
中国本土	0 人	0 人	皆減	N/A	0 人	0 人	皆減	N/A
香港	0 人	0 人	皆減	N/A	0 人	0 人	皆減	N/A
アメリカ	0 人	0 人	皆減	N/A	0 人	0 人	皆減	N/A
タイ	0 人	0 人	皆減	N/A	0 人	0 人	皆減	N/A
シンガポール	0 人	0 人	皆減	N/A	0 人	0 人	皆減	N/A
その他	0 人	0 人	皆減	N/A	0 人	0 人	皆減	N/A
合計	0 人	0 人	皆減	N/A	0 人	0 人	皆減	N/A

各方面ごとの概況と見通し

東京

1月は、羽田-那覇路線などでの減便や、1月8日から1都3県(1月14日に栃木県が追加され1都4県)が国の緊急事態宣言の対象となり、不要不急の移動自粛要請が行われた影響などから、前年同月を大きく下回った。
2月は、羽田-那覇路線などで減便規模が拡大されていることや、国や県独自の緊急事態宣言が継続されている影響などから、厳しい状況が予想される。

関西

1月は、関西-那覇路線などでの減便や、1月14日から3府県が国の緊急事態宣言の対象となり、不要不急の移動自粛要請が行われた影響などから、前年同月を大きく下回った。
2月は、関西-宮古路線の運休や関西-那覇路線などで減便規模が拡大されていること、国や県独自の緊急事態宣言が継続されている影響などから、厳しい状況が予想される。

福岡

1月は、主要方面別で対前年同月比の減少率が最も小さかった。北九州-那覇路線の運休が続いたことや福岡-那覇路線などでの減便、1月14日から福岡県が国の緊急事態宣言の対象となり、不要不急の移動自粛要請が行われた影響などから、前年同月を大きく下回った。
2月は、福岡-石垣路線などの運休や福岡-那覇路線で減便規模が拡大されていること、国や県独自の緊急事態宣言が継続されている影響などから、厳しい状況が予想される。

名古屋

1月は、主要方面別で対前年同月比の減少率が最も大きかった。1月22日から中部-石垣路線などで新規就航があったものの、中部-那覇路線などでの減便や、1月14日から2県が国の緊急事態宣言の対象となった影響などから、前年同月を大きく下回った。
2月は、中部-宮古路線の運休や中部-那覇路線などで減便規模が拡大されていること、国や県独自の緊急事態宣言が継続されている影響などから、厳しい状況が予想される。

台湾

1月は、台湾(台北、台中、高雄)-那覇の3路線が全て運休になっていることに加えて、観光目的での日本への入国制限措置がとられたことなどから、前年同月比で皆減となった。
2月は、航空路線の運休やクルーズ船の運航停止、日本への入国制限措置が引き続きとられていることなどから、厳しい状況が続くと予想される。

韓国

1月は、韓国(ソウル、釜山、大邱)-那覇の3路線が全て運休になっていること、観光目的での日本への入国制限措置がとられたことなどから、前年同月比で皆減となった。
2月は、航空路線の運休や日本への入国制限措置が引き続きとられていることなどから、厳しい状況が続くと予想される。

中国本土

1月は、中国(上海、杭州、南京、青島)-那覇の4路線が全て運休になっていること、観光目的での日本への入国制限措置がとられたことなどから、前年同月比で皆減となった。
2月は、航空路線の運休やクルーズ船の運航停止、日本への入国制限措置が引き続きとられていることなどから、厳しい状況が続くと予想される。

香港

1月は、香港-那覇路線が運休になっていることに加えて、観光目的での日本への入国制限措置がとられたことなどから、前年同月比で皆減となった。
2月は、航空路線の運休やクルーズ船の運航停止、日本への入国制限措置が引き続きとられていることなどから、厳しい状況が続くと予想される。

令和3年(2021)2月 入域観光客数概況

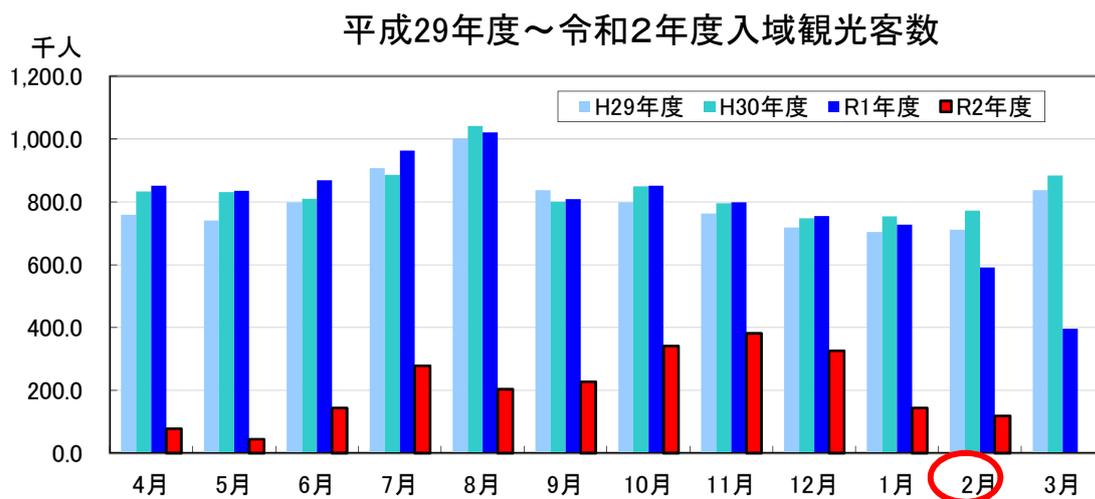
11万8,800人
 対前年(R2)同月比 -47万2,100人、-79.9%
 ~2月としては対前年同月比で減少数、減少率ともに過去最大~

入域状況

入域観光客数(令和元年度との比較) ※外国客については、乗務員等を含む

区分	R2年度	R1年度	増減数	増減率	構成比
国内客	118,800 人	529,900 人	△ 411,100人	△ 77.6%	100.0%
外国客	0 人	61,000 人	△ 61,000人	皆減	0.0%
合計	118,800 人	590,900 人	△ 472,100人	△ 79.9%	100.0%

(参考)乗務員等を除いた入域観光客数 R2年度 118,800人 R1年度 587,400人



国内客 入域状況

2月は、航空路線での運休・減便規模が拡大していること、また、国や県独自の緊急事態宣言が継続された影響などから、前年同月を大きく下回った。
 3月は、航空路線での運休・減便の継続、また、国の緊急事態宣言の全国的な解除が月の下旬になることやGo Toトラベル事業の一時停止が継続されている影響などから、厳しい状況が予想される。

外国客 入域状況

2月は、台湾、中国、香港、韓国を含む国や地域から、日本への入国制限措置がとられたことなどから、引き続き皆減となった。
 3月は、日本への入国制限措置がとられていることなどから、厳しい状況が続くと予想される。

国内客 地域別入域状況

区分	R2年度	R1年度	増減数	増減率	構成比
東京方面	60,300 人	252,800 人	△ 192,500人	△ 76.1%	50.8%
関西方面	23,800 人	106,000 人	△ 82,200人	△ 77.5%	20.0%
福岡方面	17,800 人	69,300 人	△ 51,500人	△ 74.3%	15.0%
名古屋	8,600 人	48,000 人	△ 39,400人	△ 82.1%	7.2%
その他	8,300 人	53,800 人	△ 45,500人	△ 84.6%	7.0%
合計	118,800 人	529,900 人	△ 411,100人	△ 77.6%	100.0%

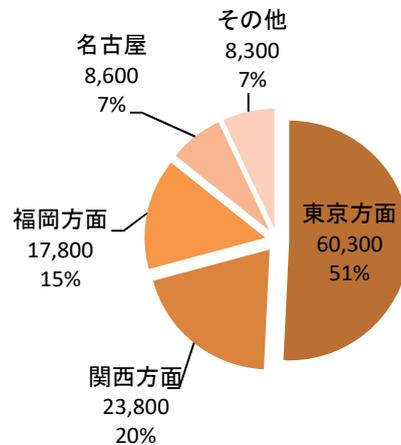
※国内海路客400人を含む(鹿児島400人)

外国客 国籍別入域状況

増減数及び増減率は、乗務員等を含む数値の比較

区分	R2年度	R2年度	R1年度	増減数	増減率	構成比
	(乗務員等含む)	(乗務員等除く)	(乗務員等含む)			
台湾	0 人	0 人	33,500 人	△ 33,500人	皆減	N/A
韓国	0 人	0 人	4,700 人	△ 4,700人	皆減	N/A
中国本土	0 人	0 人	1,100 人	△ 1,100人	皆減	N/A
香港	0 人	0 人	9,700 人	△ 9,700人	皆減	N/A
アメリカ	0 人	0 人	1,500 人	△ 1,500人	皆減	N/A
タイ	0 人	0 人	1,800 人	△ 1,800人	皆減	N/A
シンガポール	0 人	0 人	1,400 人	△ 1,400人	皆減	N/A
その他	0 人	0 人	7,300 人	△ 7,300人	皆減	N/A
合計	0 人	0 人	61,000 人	△ 61,000人	皆減	N/A

国内客の地域構成比



外国客 空路・海路の国籍別入域状況

増減率は、乗務員等を含む数値の比較

区分	空路				海路			
	観光客数 (乗務員等含む)	観光客数 (乗務員等除く)	増減率	構成比	観光客数 (乗務員等含む)	観光客数 (乗務員等除く)	増減率	構成比
台湾	0 人	0 人	皆減	N/A	0 人	0 人	皆減	N/A
韓国	0 人	0 人	皆減	N/A	0 人	0 人	皆減	N/A
中国本土	0 人	0 人	皆減	N/A	0 人	0 人	皆減	N/A
香港	0 人	0 人	皆減	N/A	0 人	0 人	皆減	N/A
アメリカ	0 人	0 人	皆減	N/A	0 人	0 人	皆減	N/A
タイ	0 人	0 人	皆減	N/A	0 人	0 人	皆減	N/A
シンガポール	0 人	0 人	皆減	N/A	0 人	0 人	皆減	N/A
その他	0 人	0 人	皆減	N/A	0 人	0 人	皆減	N/A
合計	0 人	0 人	皆減	N/A	0 人	0 人	皆減	N/A

各方面ごとの概況と見通し

東京

2月は、羽田-那覇路線などでの減便規模が拡大されたことや、国や県独自の緊急事態宣言が継続され、不要不急の移動自粛要請が行われた影響などから、前年同月を大きく下回った。
3月は、羽田-那覇路線で新規路線が就航し、成田-那覇路線などで減便規模が縮小されるものの、国の緊急事態宣言が1都3県(東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県)で令和3年3月21日まで継続された影響などから、厳しい状況が予想される。

関西

2月は、関西-宮古路線の運休や関西-那覇路線などで減便規模が拡大されたこと、国や県独自の緊急事態宣言が継続され、不要不急の移動自粛要請が行われた影響などから、前年同月を大きく下回った。
3月は、緊急事態宣言が解除され、関西-宮古路線が復便となるものの、関西-那覇路線などでの減便が継続されている影響などから、厳しい状況が予想される。

福岡

2月は、主要方面別で対前年同月比の減少率が最も小さかった。福岡-石垣路線などの運休や福岡-那覇路線で減便規模が拡大されたこと、国や県独自の緊急事態宣言が継続され、不要不急の移動自粛要請が行われた影響などから、前年同月を大きく下回った。
3月は、緊急事態宣言が解除され、福岡-石垣路線で復便となるものの、福岡-那覇路線で減便が継続されている影響などから、厳しい状況が予想される。

名古屋

2月は、主要方面別で対前年同月比の減少率が最も大きかった。中部-宮古路線の運休や中部-那覇路線などで減便規模が拡大されたこと、国や県独自の緊急事態宣言が継続された影響などから、前年同月を大きく下回った。
3月は、緊急事態宣言が解除され、中部-宮古路線で復便となるものの、中部-那覇路線などで減便が継続されている影響などから、厳しい状況が予想される。

台湾

2月は、台湾(台北、台中、高雄)-那覇の3路線が全て運休になっていることに加えて、日本への入国制限措置が継続されたことなどから、前年同月比で皆減となった。
3月は、航空路線の運休やクルーズ船の運航停止、日本への入国制限措置が引き続きとられていることなどから、厳しい状況が続くと予想される。

韓国

2月は、韓国(ソウル、釜山、大邱)-那覇の3路線が全て運休になっていること、日本への入国制限措置が継続されたことなどから、前年同月比で皆減となった。
3月は、航空路線の運休や日本への入国制限措置が引き続きとられていることなどから、厳しい状況が続くと予想される。

中国本土

2月は、中国(上海、杭州、南京、青島)-那覇の4路線が全て運休になっていること、日本への入国制限措置が継続されたことなどから、前年同月比で皆減となった。
3月は、航空路線の運休やクルーズ船の運航停止、日本への入国制限措置が引き続きとられていることなどから、厳しい状況が続くと予想される。

香港

2月は、香港-那覇路線が運休になっていることに加えて、日本への入国制限措置が継続されたことなどから、前年同月比で皆減となった。
3月は、航空路線の運休やクルーズ船の運航停止、日本への入国制限措置が引き続きとられていることなどから、厳しい状況が続くと予想される。

令和3年(2021)3月 入域観光客数概況

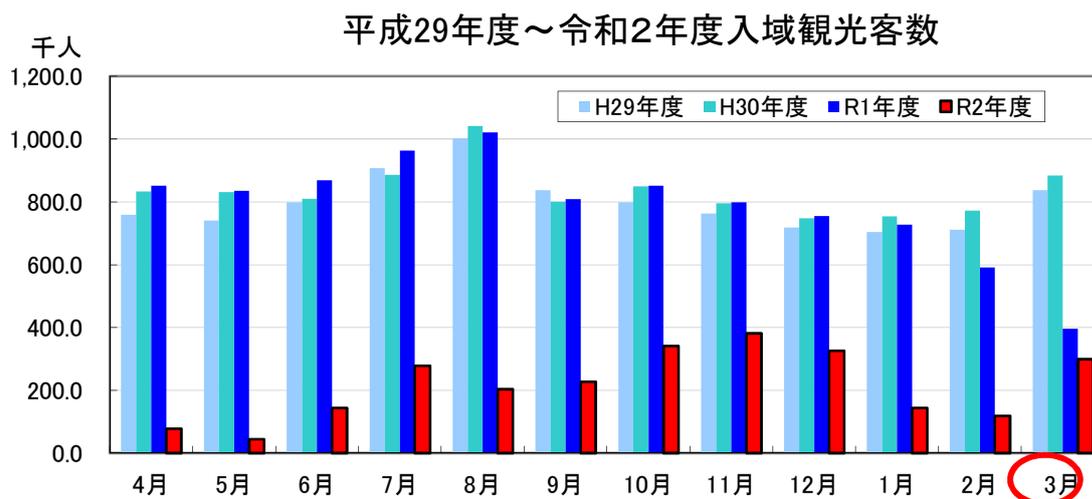
29万9,200人
 対前年(R2)同月比 -9万7,100人、-24.5%
 ~3月としては対前年同月比で減少数、減少率ともに過去3番目~

入域状況

入域観光客数(令和元年度との比較) ※外国客については、乗務員等を含む

区分	R2年度	R1年度	増減数	増減率	構成比
国内客	299,200 人	393,900 人	△ 94,700人	△ 24.0%	100.0%
外国客	0 人	2,400 人	△ 2,400人	皆減	0.0%
合計	299,200 人	396,300 人	△ 97,100人	△ 24.5%	100.0%

(参考)乗務員等を除いた入域観光客数 R2年度 299,200人 R1年度 396,300人



国内客 入域状況

3月は、航空路線での運休・減便が継続したこと、また、国の緊急事態宣言の影響などから、前年同月を下回った。

4月は、航空路線での運休・減便やGo Toトラベル事業の一時停止の継続、また、新型コロナウイルス感染症まん延防止等重点措置及び国の緊急事態宣言の影響などから、厳しい状況が予想される。

外国客 入域状況

3月は、台湾、中国、香港、韓国を含む国や地域から、日本への入国制限措置がとられたことなどから、引き続き皆減となった。

4月は、日本への入国制限措置がとられていることなどから、厳しい状況が続くと予想される。

国内客 地域別入域状況

区分	R2年度	R1年度	増減数	増減率	構成比
東京方面	143,800 人	191,700 人	△ 47,900人	△ 25.0%	48.1%
関西方面	67,000 人	85,000 人	△ 18,000人	△ 21.2%	22.4%
福岡方面	41,800 人	52,400 人	△ 10,600人	△ 20.2%	14.0%
名古屋	27,900 人	31,200 人	△ 3,300人	△ 10.6%	9.3%
その他	18,700 人	33,600 人	△ 14,900人	△ 44.3%	6.3%
合計	299,200 人	393,900 人	△ 94,700人	△ 24.0%	100.0%

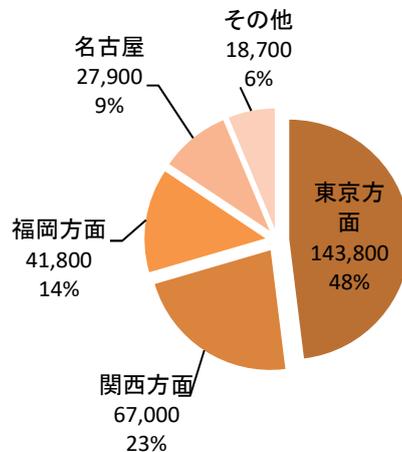
※国内海路客1,200人を含む(鹿児島1,200人)

外国客 国籍別入域状況

増減数及び増減率は、乗務員等を含む数値の比較

区分	R2年度	R2年度	R1年度	増減数	増減率	構成比
	(乗務員等含む)	(乗務員等除く)	(乗務員等含む)			
台湾	0 人	0 人	600 人	△ 600人	皆減	N/A
韓国	0 人	0 人	100 人	△ 100人	皆減	N/A
中国本土	0 人	0 人	0 人	△ 0人	#DIV/0!	N/A
香港	0 人	0 人	800 人	△ 800人	皆減	N/A
アメリカ	0 人	0 人	300 人	△ 300人	皆減	N/A
タイ	0 人	0 人	0 人	△ 0人	#DIV/0!	N/A
シンガポール	0 人	0 人	400 人	△ 400人	皆減	N/A
その他	0 人	0 人	200 人	△ 200人	皆減	N/A
合計	0 人	0 人	2,400 人	△ 2,400人	皆減	N/A

国内客の地域構成比



外国客 空路・海路の国籍別入域状況

増減率は、乗務員等を含む数値の比較

区分	空路				海路			
	観光客数 (乗務員等含む)	観光客数 (乗務員等除く)	増減率	構成比	観光客数 (乗務員等含む)	観光客数 (乗務員等除く)	増減率	構成比
台湾	0 人	0 人	皆減	N/A	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A
韓国	0 人	0 人	皆減	N/A	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A
中国本土	0 人	0 人	皆減	N/A	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A
香港	0 人	0 人	皆減	N/A	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A
アメリカ	0 人	0 人	皆減	N/A	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A
タイ	0 人	0 人	皆減	N/A	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A
シンガポール	0 人	0 人	皆減	N/A	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A
その他	0 人	0 人	皆減	N/A	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A
合計	0 人	0 人	皆減	N/A	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A

各方面ごとの概況と見通し

東京

3月は、主要方面別で対前年同月比の減少率が最も大きかった。羽田-那覇路線などでの減便が継続されたことや、国の緊急事態宣言が1都3県で継続され、不要不急の外出自粛要請が行われた影響などから、前年同月を下回った。

4月は、羽田-那覇路線で新規路線が就航し、減便規模が縮小されるものの、まん延防止等重点措置及び国の緊急事態宣言の影響などから、厳しい状況が予想される。

関西

3月は、国の緊急事態宣言が解除され、関西-宮古路線で減便規模が縮小されたものの、関西-那覇路線などで減便が継続された影響などから、前年同月を下回った。

4月は、関西-宮古路線で復便となるものの、関西-那覇路線などでの減便が継続されていること、まん延防止等重点措置及び国の緊急事態宣言の影響などから、厳しい状況が予想される。

福岡

3月は、国の緊急事態宣言が解除され、福岡-石垣路線で減便規模が縮小されたものの、福岡-那覇路線で減便が継続された影響などから、前年同月を下回った。

4月は、福岡-石垣路線で復便となるものの、福岡-那覇路線で減便が継続されている影響などから、厳しい状況が予想される。

名古屋

3月は、主要方面別で対前年同月比の減少率が最も小さかった。国の緊急事態宣言が解除され、中部-宮古路線で減便規模が縮小されたものの、中部-那覇路線などで減便が継続された影響などから、前年同月を下回った。

4月は、中部-宮古路線で復便となるものの、中部-那覇路線などで減便が継続されていることや、まん延防止等重点措置が実施されている影響などから、厳しい状況が予想される。

台湾

3月は、台湾(台北、台中、高雄)-那覇の3路線が全て運休になっていることに加えて、日本への入国制限措置が継続されたことなどから、前年同月比で皆減となった。

4月は、航空路線の運休やクルーズ船の運航停止、日本への入国制限措置が引き続きとられていることなどから、厳しい状況が続くと予想される。

韓国

3月は、韓国(ソウル、釜山、大邱)-那覇の3路線が全て運休になっていること、日本への入国制限措置が継続されたことなどから、前年同月比で皆減となった。

4月は、航空路線の運休や日本への入国制限措置が引き続きとられていることなどから、厳しい状況が続くと予想される。

中国本土

3月は、中国(上海、杭州、南京、青島)-那覇の4路線が全て運休になっていること、日本への入国制限措置が継続されたことなどから、前年同月比で皆減となった。

4月は、航空路線の運休やクルーズ船の運航停止、日本への入国制限措置が引き続きとられていることなどから、厳しい状況が続くと予想される。

香港

3月は、香港-那覇路線が運休になっていることに加えて、日本への入国制限措置が継続されたことなどから、前年同月比で皆減となった。

4月は、航空路線の運休やクルーズ船の運航停止、日本への入国制限措置が引き続きとられていることなどから、厳しい状況が続くと予想される。